

# 練馬区通所サービス調査 報告書

(新型コロナウイルス感染症拡大による影響調査)

令和3年(2021年)3月





# 目 次

I. 調査概要 .....	1
II. 調査結果の詳細 .....	3
1 利用者の要介護度 .....	3
2 通所サービスの利用状況 .....	4
(1) 令和2年2月の利用状況 .....	4
(2) 利用状況の変化 .....	5
(3) サービス利用が減少した理由 .....	9
(4) 新型コロナウイルス感染症による影響 .....	12
(5) 代替サービス .....	14
3 利用者の変化 .....	17
(1) 令和2年2月からの身体状況等の変化 .....	17
(2) 今後の利用意向の変化 .....	22
(3) 具体的な利用意向 .....	23
4 スマートホン等の利用状況 .....	30
参考 調査票 .....	31

# I. 調査概要

## 1 調査の目的

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言中における通所サービスの利用状況を把握し、第8期介護保険事業計画策定の基礎資料とするために、介護支援専門員に対して調査を実施した。

## 2 調査方法

メール配布とし、回収はウェブサイトからの回答及びFax（一部、持参）による紙回答とした。

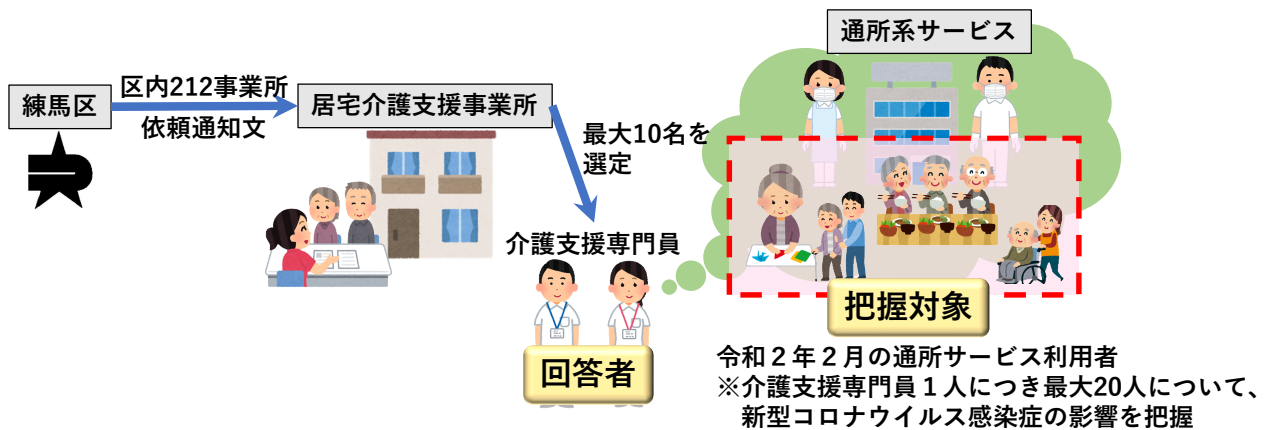
## 3 調査期間

令和2年9月11日（金）～9月24日（木）

## 4 調査対象

- 令和2年8月1日現在の区内の居宅介護支援事業所 212 事業所に在籍する介護支援専門員について、1 事業者あたり最大 10 名を回答者の対象とした。
- 令和2年2月にケアマネジメントをしていた利用者のうち、通所サービス（通所介護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、通所リハビリテーション、総合事業通所型サービス）を利用していた方を把握の対象とした（調査回答日に、区外転出・他界しているなど、練馬区の被保険者ではない方を除く）。
- 介護支援専門員1名につき、最大20名の利用者について把握の対象とした。

### ■調査対象の考え方



## 5 回収状況

○利用者 3,519 人分の有効回答を得た。

	回収数（利用者）	有効回答
全体	3,532 人	3,519 人
うち、ウェブ回答	1,515 人	1,503 人
うち、紙回答	2,017 人	2,016 人

## 6 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のnとは、基数となる実数のことである。
- 回答はnを100%として百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の「－」は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 複数の回答選択肢を1つにまとめて分析する場合（例えば、「とてもよい」と「まあよい」を合算し、「よい」として分析する場合）、回答選択肢ごとの比率を合計した数値と、1つにまとめた比率の数値が異なる場合がある。これは四捨五入する際に生じた差異である。
- 質問において、性別、年齢別、要介護度別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- クロス集計の図・表中では、要介護度の表記を下記のように記載する。

選択肢	記載名
令和2年2月の要介護度の要支援1・2、総合事業対象者	要支援
令和2年2月の要介護度の要介護1・2	要介護1・2
令和2年2月の要介護度の要介護3・4・5	要介護3～5

- クロス集計の図・表中では、通所サービスの利用頻度の表記を下記のように記載する。

選択肢	記載名
Q3_1～5 で一つでも選択肢3「5月の利用頻度が減った」、4「サービス利用がなかった」が選ばれた利用者	利用頻度が低下
上記以外	利用頻度の低下なし

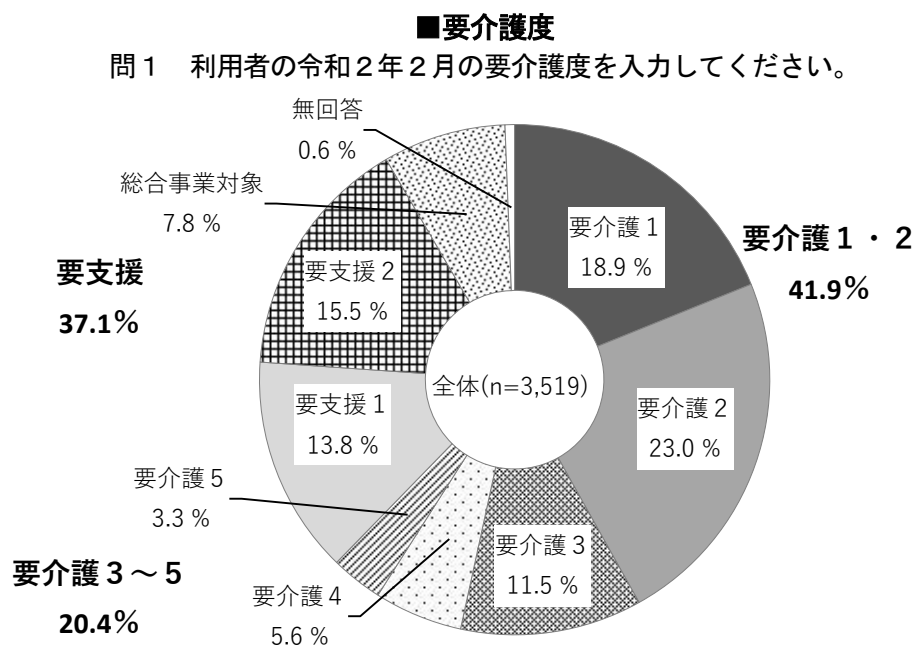
- クロス集計の図・表中では、身体状況等の変化有無の表記を下記のように記載する。

選択肢	記載名
Q6_1～6 で一つでも選択肢1「ある」が選ばれた利用者	身体状況等の変化あり
Q6_1～6で全て選択肢2「ない」だった利用者 ※「分からない」や無回答が一つでもあれば非該当	身体状況等の変化なし

## II. 調査結果の詳細

### 1 利用者の要介護度

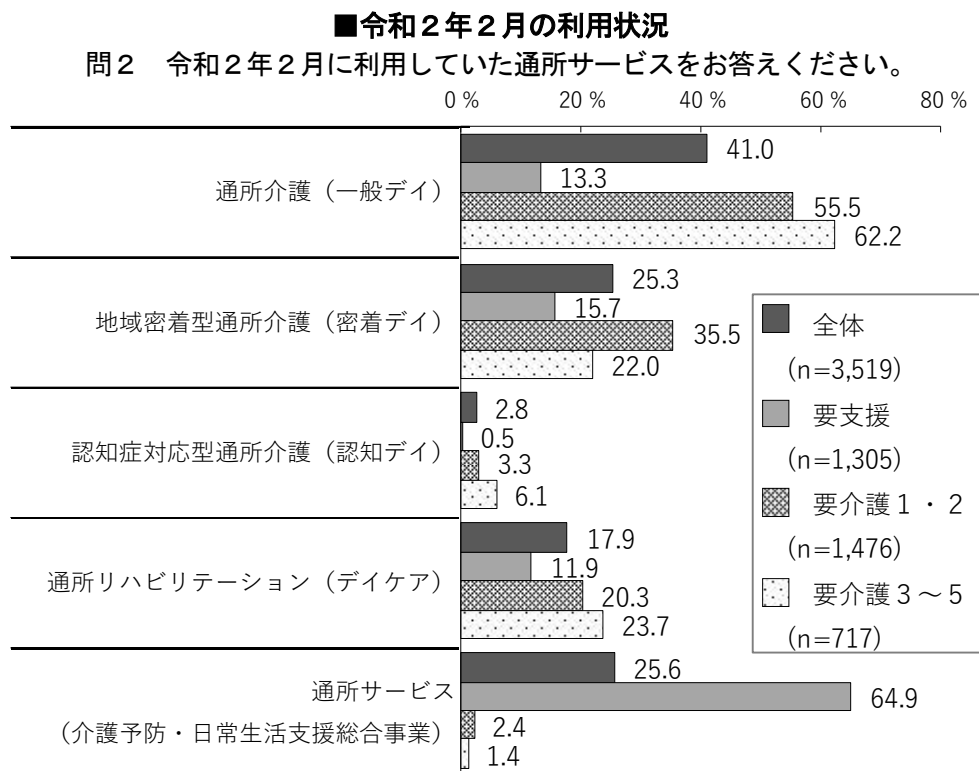
○利用者の要介護度は、“要支援”（「要支援1」「要支援2」「総合事業対象」の合計）が37.1%、“要介護1・2”（「要介護1」「要介護2」の合計）が41.9%、“要介護3～5”（「要介護3」「要介護4」「要介護5」の合計）が20.4%であった。



## 2 通所サービスの利用状況

### (1) 令和2年2月の利用状況

- 利用者の令和2年2月の通所サービスの利用状況をみると、「通所介護（一般デイ）」が41.0%、「地域密着型介護（密着デイ）」が25.3%、「認知症対応型通所介護（認知デイ）」が2.8%、「通所リハビリテーション（デイケア）」が17.9%、「通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）」が25.6%であった。
- 要介護度別にみると、6割半ばの“要支援”が「通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）」を利用している。
- “要介護1・2”と“要介護3～5”では、半数以上が「通所介護（一般デイ）」を利用している。

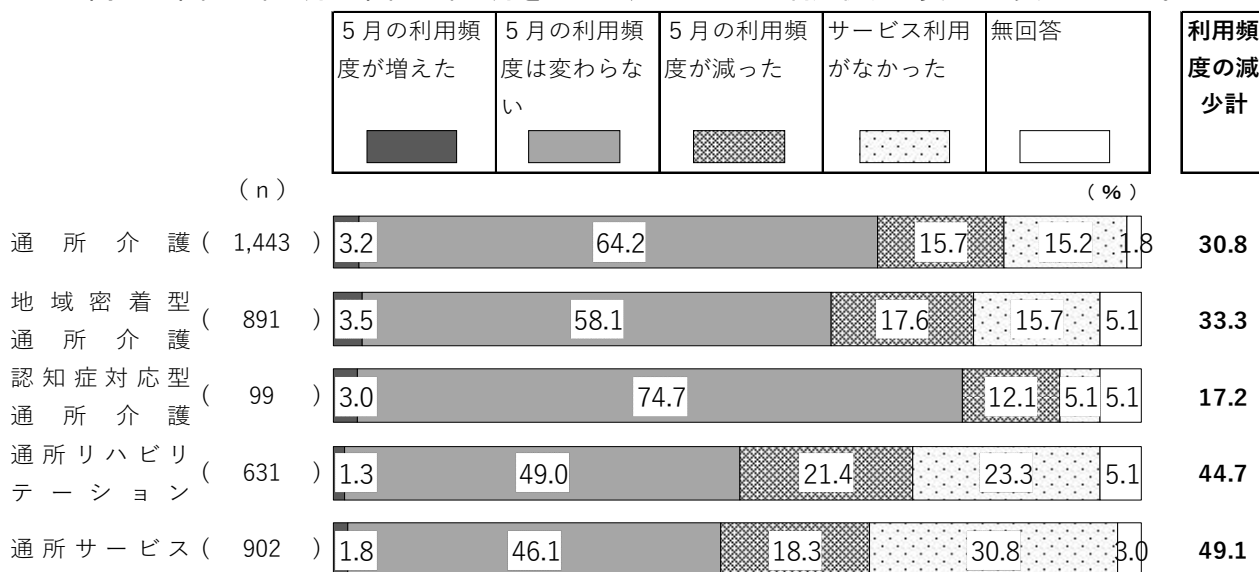


## (2) 利用状況の変化

- 令和2年2月に利用していた通所サービスについて、5月の利用頻度の変化を聞いたところ、“利用頻度の減少計”（「5月の利用頻度が減った」「サービス利用がなかった」の合計）は、『通所介護』で30.8%、『地域密着型通所介護』で33.3%、『認知症対応型通所介護』で17.2%、『通所リハビリテーション』で44.7%、『通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）』で49.1%だった。
- 5月に「サービス利用がなかった」のは、『通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）』の利用者で約3割、『通所リハビリテーション』の利用者で2割超であった。
- 『認知症対応型通所介護』の利用者は、「5月の利用頻度は変わらない」が7割半ばで、利用状況に大きな変化はみられなかった。

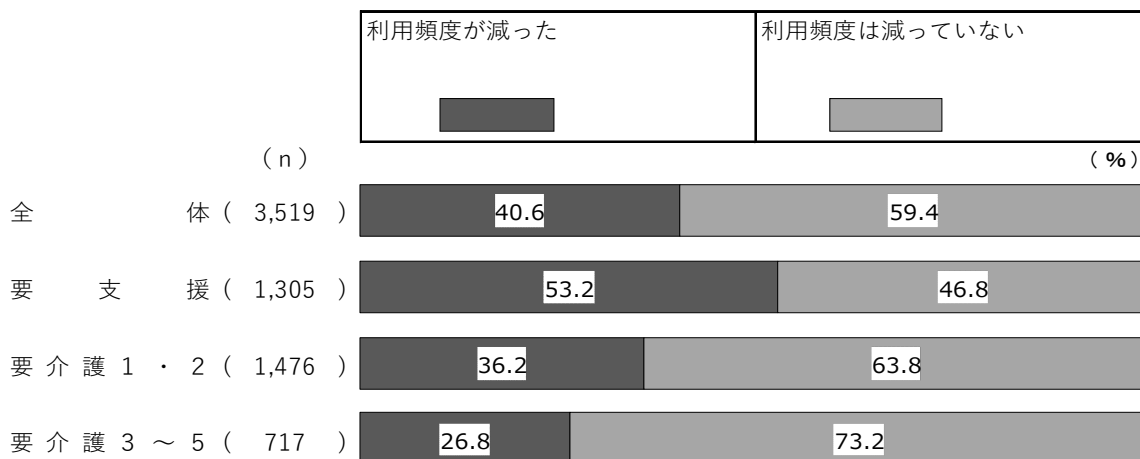
### ■令和2年2月と5月の利用状況の変化<サービス別>

問3 令和2年2月と令和2年5月を比べて、サービスの利用状況に変化はありましたか。



- 全体では、“利用頻度が減った”（「5月の利用頻度が減った」「サービス利用がなかった」の合計）は40.6%、“利用頻度は減っていない”（「5月の利用頻度が増えた」「5月の利用頻度は変わらない」の合計）は59.4%であった。
- 要介護度別にみると、“利用頻度が減った”は『要支援』で53.2%、『要介護1・2』で36.2%、『要介護3～5』で26.8%と、要介護度が軽度になるほど利用頻度が減っている傾向がみられた。

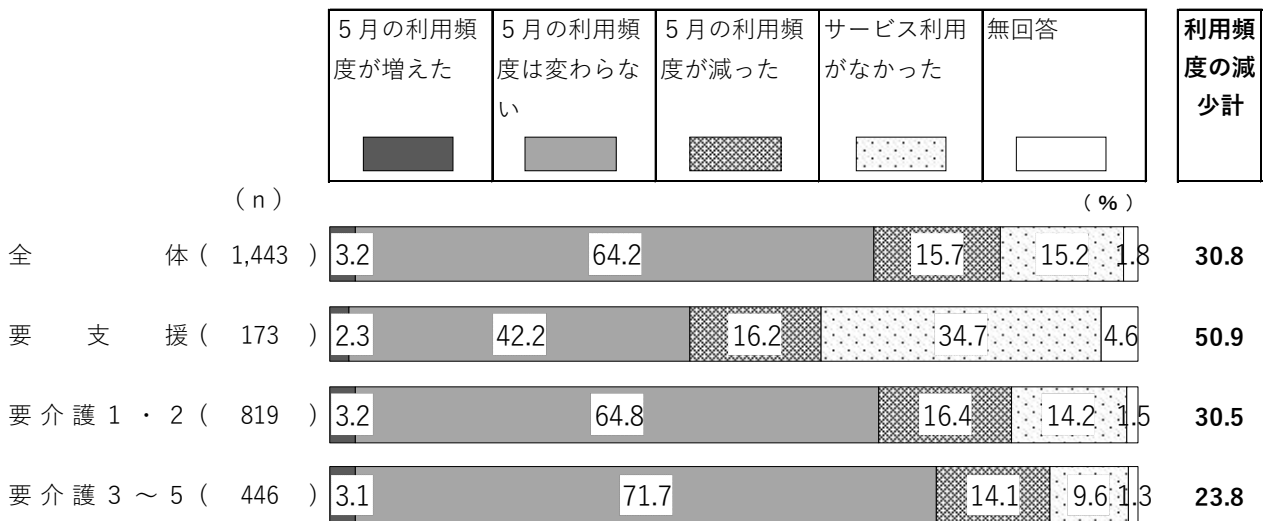
### ■令和2年2月と5月の利用状況の変化<要介護度別：まとめ>





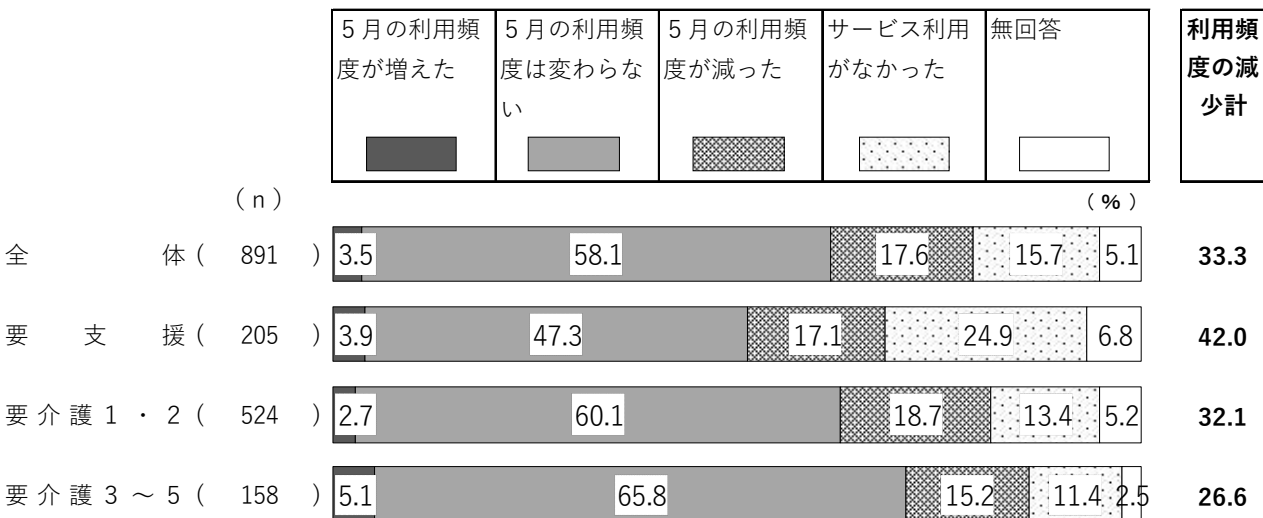
○通所介護の利用頻度の変化を要介護度別にみると、“利用頻度の減少計”は、『要支援』で半数、『要介護1・2』で約3割、『要介護3～5』で2割超と、要介護度が軽度になるほど利用頻度が減る傾向がみられた。

■令和2年2月と5月の利用状況の変化<通所介護：要介護度別>



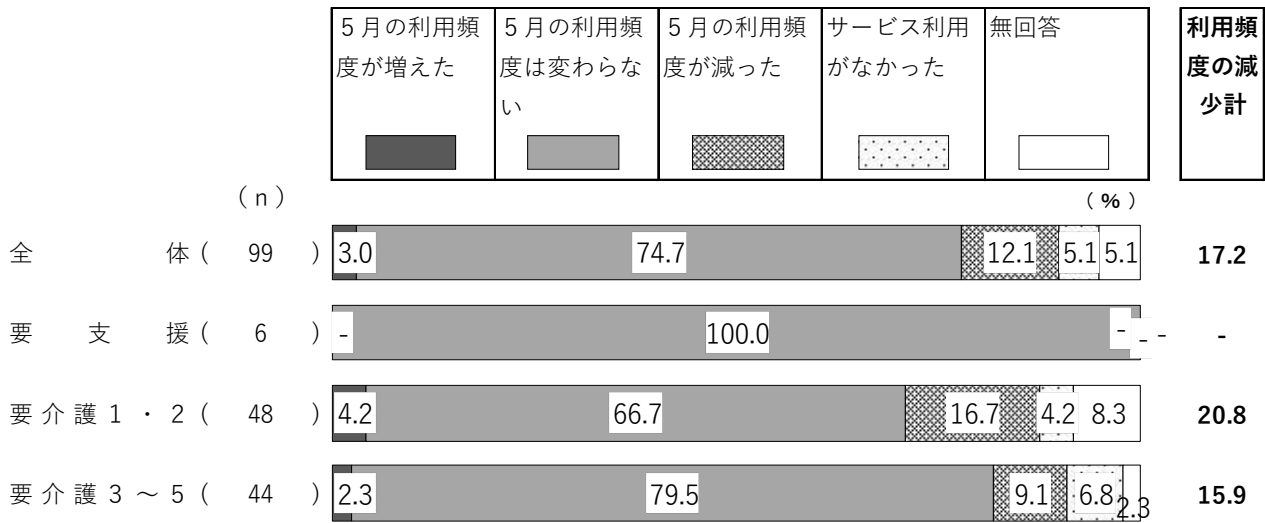
○地域密着型通所介護の利用頻度の変化を要介護度別にみると、“利用頻度の減少計”は、『要支援』が42.0%で、『要介護1・2』(32.1%)、『要介護3～5』(26.6%)と比べて高い傾向がみられた。

■令和2年2月と5月の利用状況の変化<地域密着型通所介護：要介護度別>



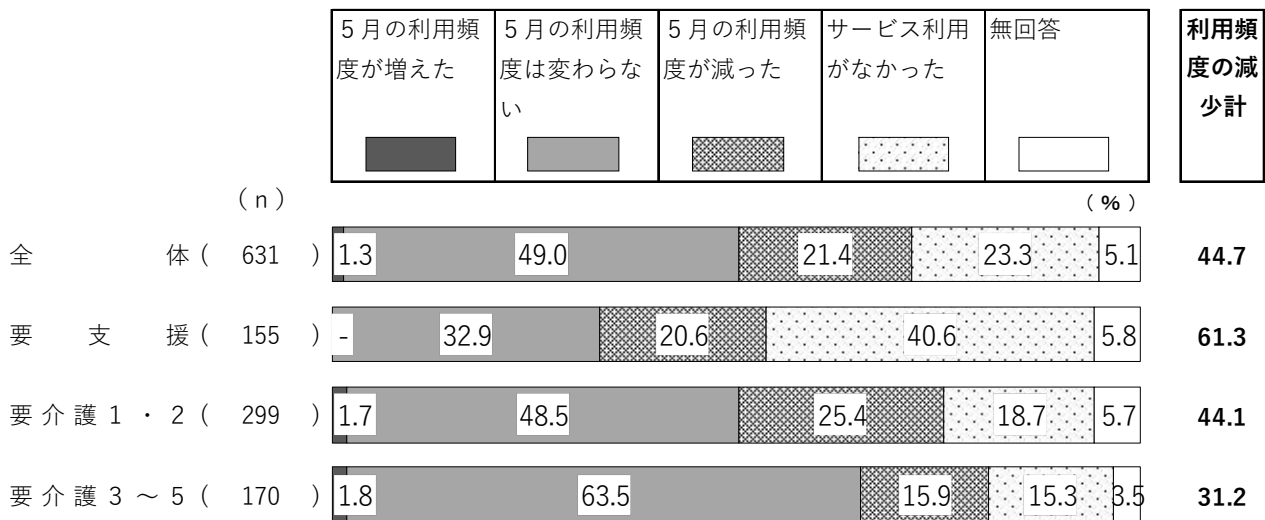
○認知症対応型通所介護の利用頻度の変化は、要介護度別に大きな差はみられなかった。

■令和2年2月と5月の利用状況の変化<認知症対応型通所介護：要介護度別>



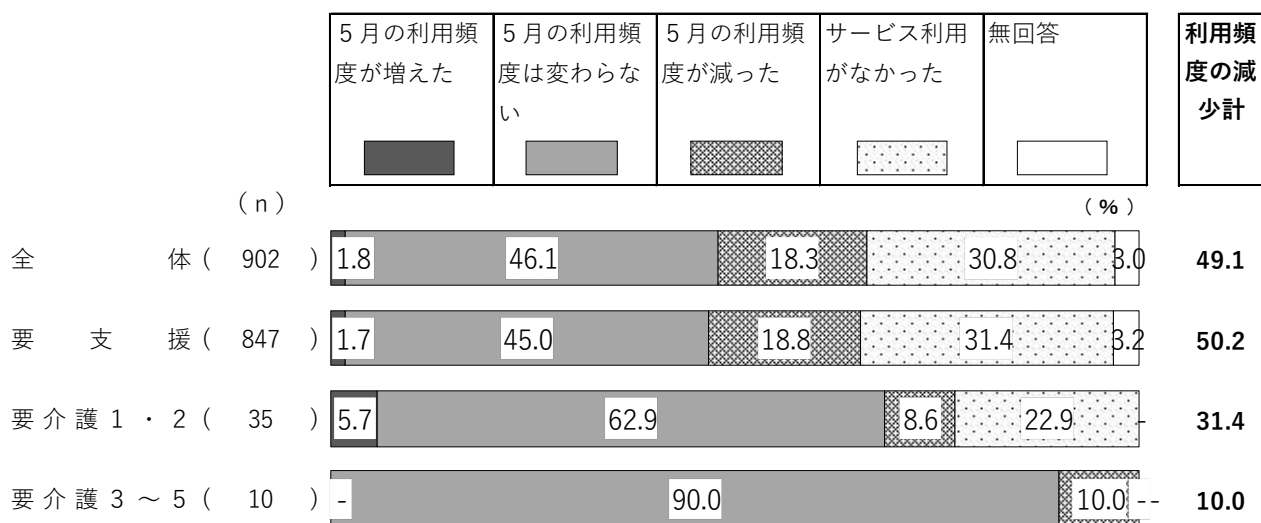
○通所リハビリテーションの利用頻度の変化を要介護度別にみると、“利用頻度の減少計”は、『要支援』で6割超、『要介護1・2』で4割半ば、『要介護3～5』で3割超と、要介護度が軽度になるほど利用頻度が減る傾向がみられた。

■令和2年2月と5月の利用状況の変化<通所リハビリテーション：要介護度別>



○通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）の利用頻度の変化は、『要支援』では“利用頻度の減少計”が50.2%であった。

■令和2年2月と5月の利用状況の変化  
 <通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）：要介護度別>

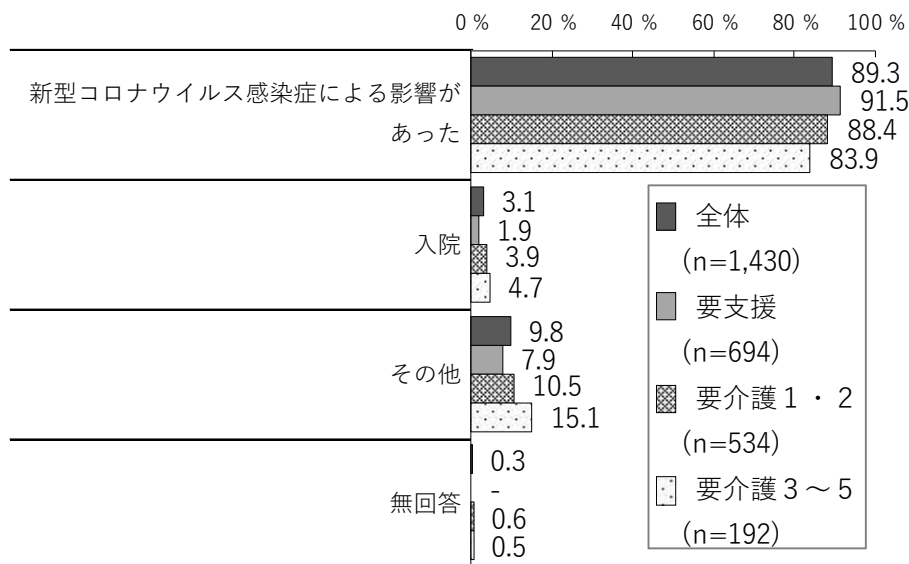


### (3) サービス利用が減少した理由

- サービス利用が減少した理由を聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症による影響があった」が全体で約9割を占めている。
- 要介護度別にみても、全体と同様の傾向であった。
- 通所サービス別にみても、全体と同様の傾向であった。

#### ■サービス利用が減少した理由（複数選択）

問4 通所サービスの利用が減った理由をお答えください。

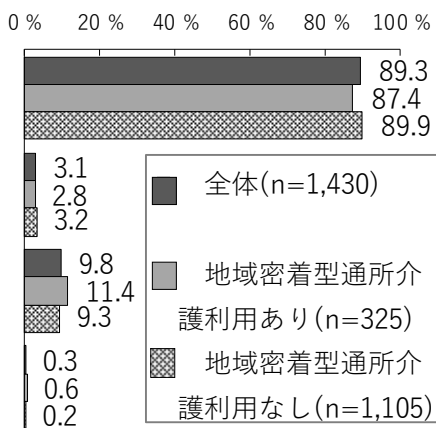
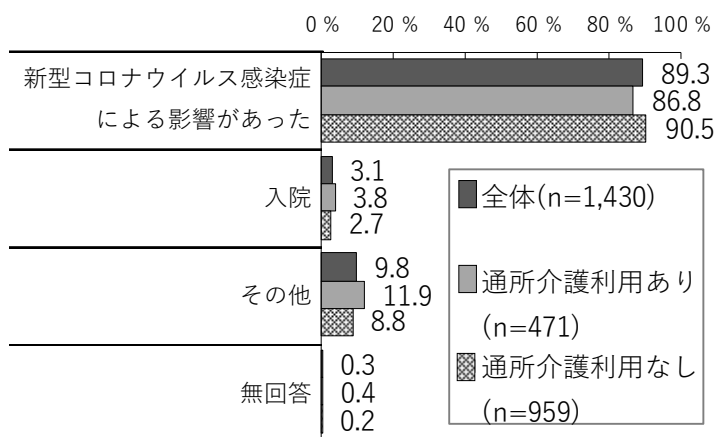


#### ■サービス利用が減少した理由（複数選択）

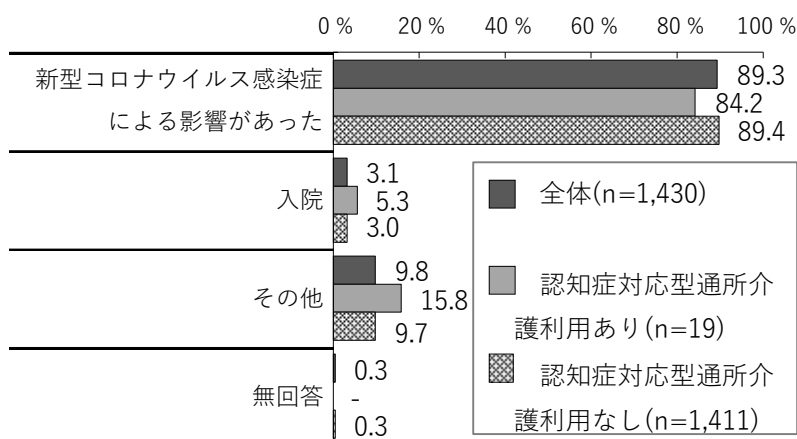
<通所サービス利用有無別>

通所介護（一般デイ）

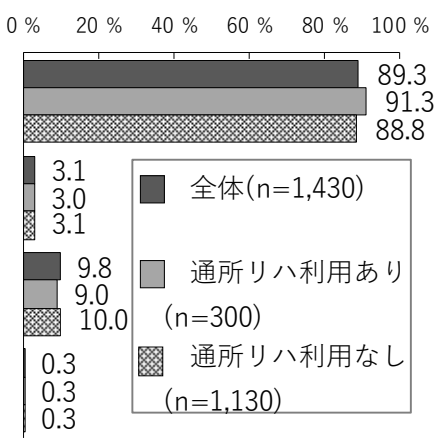
地域密着型通所介護（密着デイ）



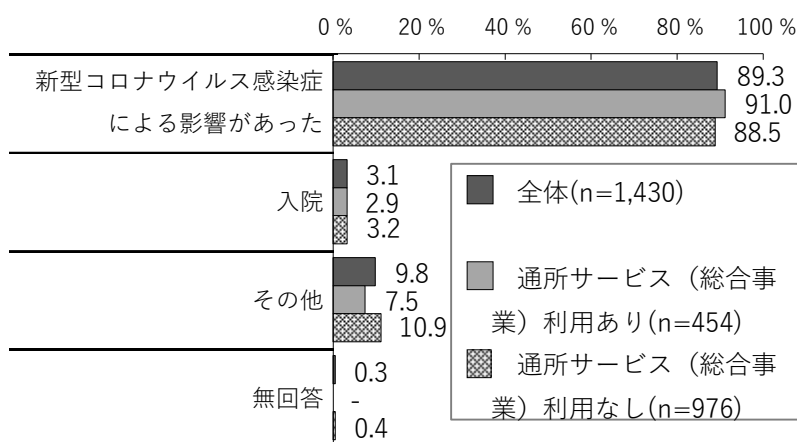
### 認知症対応型通所介護（認知デイ）



### 通所リハビリテーション（デイケア）



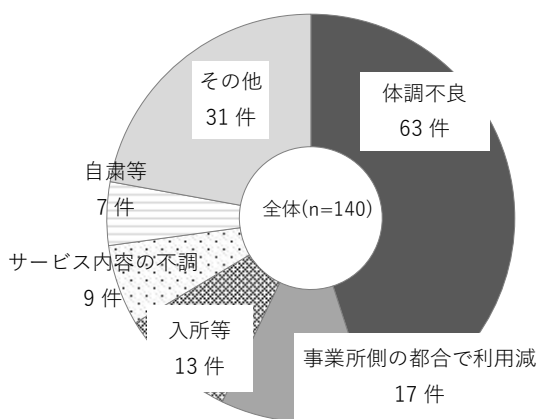
### 通所サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）



○その他を選んだ、利用者 140 名の回答があった。

○「体調不良」が 63 件、「事業所側の都合で利用減」が 17 件であった。

### ■その他（自由回答）



## ■その他の主な内容

体調不良【63件】
体調を崩した
発熱の繰り返し
病状により一時的にお休みした
骨折したため
持病の精神疾患のため
事業所側の都合で利用減【17件】
デイの方針で支援の人の曜日が決まった曜日になった為
デイ閉鎖
サ高住のため、出入りが禁止になったため
サービス事業者の休止
入所等【13件】
施設入所
入院後有料老人ホーム入所
ショートステイ利用
サービス内容の不調【9件】
デイサービスが合わなかったため
自分に合わない利用を辞めた。
本人の拒否
自粛等【7件】
感染を避けるために休んでいた
ご本人より怖くて行けないと希望にて中止してます。
その他【件】
体調が良くなり仕事復帰した。
認定が支援になった
介護度3になったため、デイサービスを今まで通りつかえなくなった。
親族が用事があり、訪問した為
ご家族支援が受けれるようになったため。
家族希望でデイ利用

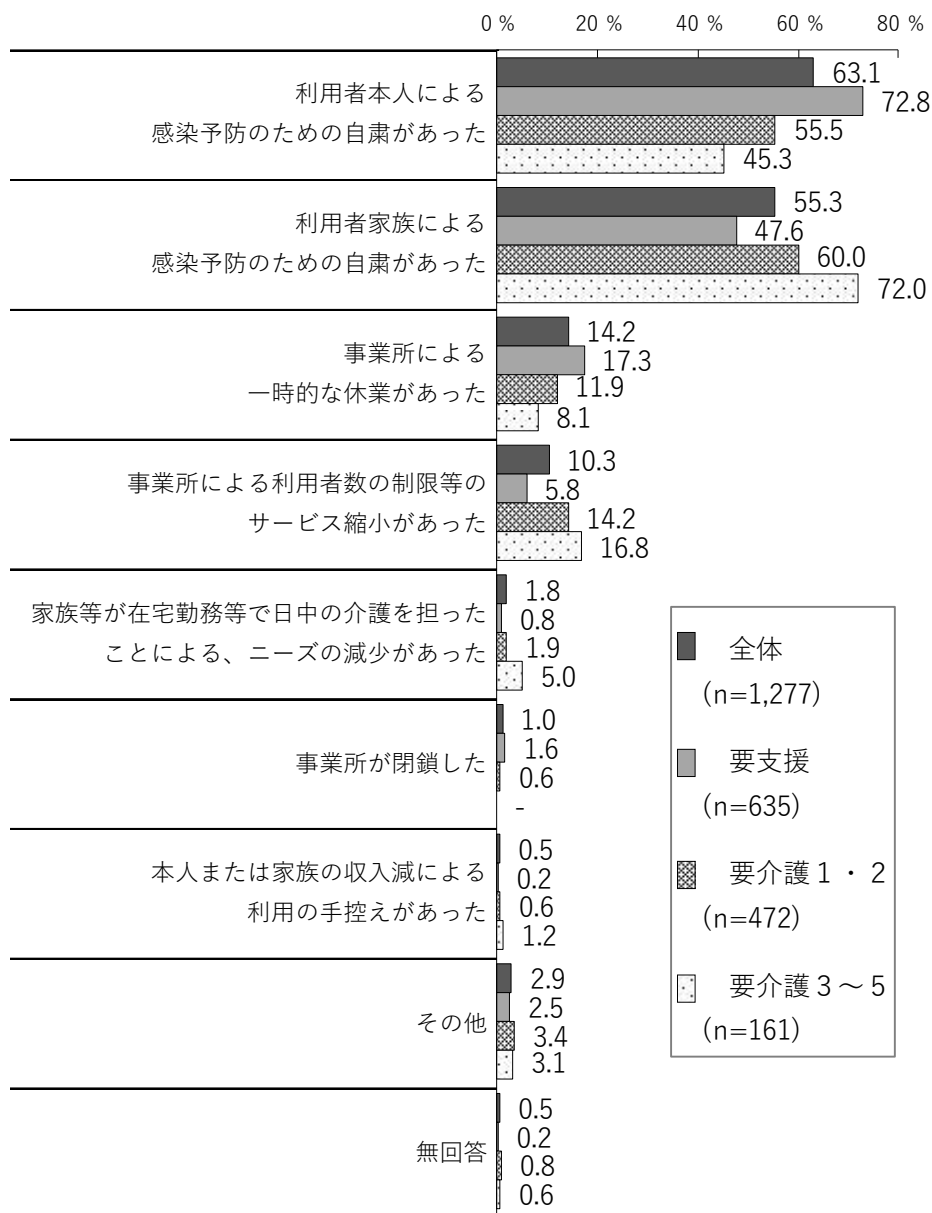
※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。

#### (4) 新型コロナウイルス感染症による影響

- 新型コロナウイルス感染症によるサービス利用の影響内容を聞いたところ、全体では「利用者本人による感染予防の自粛があった」が63.1%、「利用者家族による感染予防のための自粛があった」が55.3%で、利用者本人及び利用者家族の自粛による利用控えが上位であった。次いで、「事業所による一時的な休業があった」が14.2%、「事業所による利用者数の制限等のサービス縮小があった」が10.3%で続いている。
- 要介護度別にみると、「利用者本人による感染予防のための自粛があった」では『要支援』が7割超、『要介護1・2』が5割半ば、『要介護3～5』が4割半ばで、要介護度が軽度なほど高い傾向がみられた。
- 「利用者家族による感染予防のための自粛があった」では『要支援』が5割近く、『要介護1・2』が6割、『要介護3～5』が7割超で、要介護度が重度なほど高い傾向がみられた。

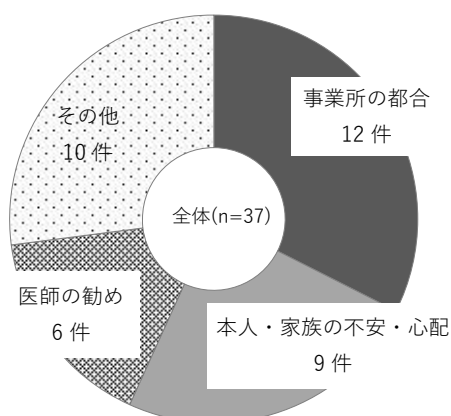
#### ■新型コロナウイルス感染症による影響（複数選択）＜要介護度別＞

問4-1 新型コロナウイルス感染症が、この利用者の通所サービス利用の減少に与えた影響について、具体的にお答えください。



- その他を選んだ、利用者 37 名の回答があった。
- 「事業所の都合」が 12 件、「本人・家族の不安・心配」が 9 件であった。

### ■その他（自由回答）



### ■その他の主な内容

<b>事業所の都合【12件】</b>
事業所が、感染拡大防止で一時的に時間短縮した。
入所施設による自粛。
他利用者で陽性者が出た。
在住のサービス付き高齢者向け住宅より自粛の要請があった。
<b>本人・家族の不安・心配【9件】</b>
事業所の予防策に本人家族が疑問を唱えていた。
糖尿病、ペースメーカー装着し、リスク高いため自粛。
ご本人の意向でデイサービスを止めたいと希望。
報道による世間の自粛ムードを受けて。
<b>医師の勧め【6件】</b>
主治医からの勧め。
病院から自粛を促された。
<b>その他【10件】</b>
ソーシャルディスタンスの影響でコミュニケーションが図りにくくなった。
夫のデイが休業になり、介護をするために休まざるをえなかった。

※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。



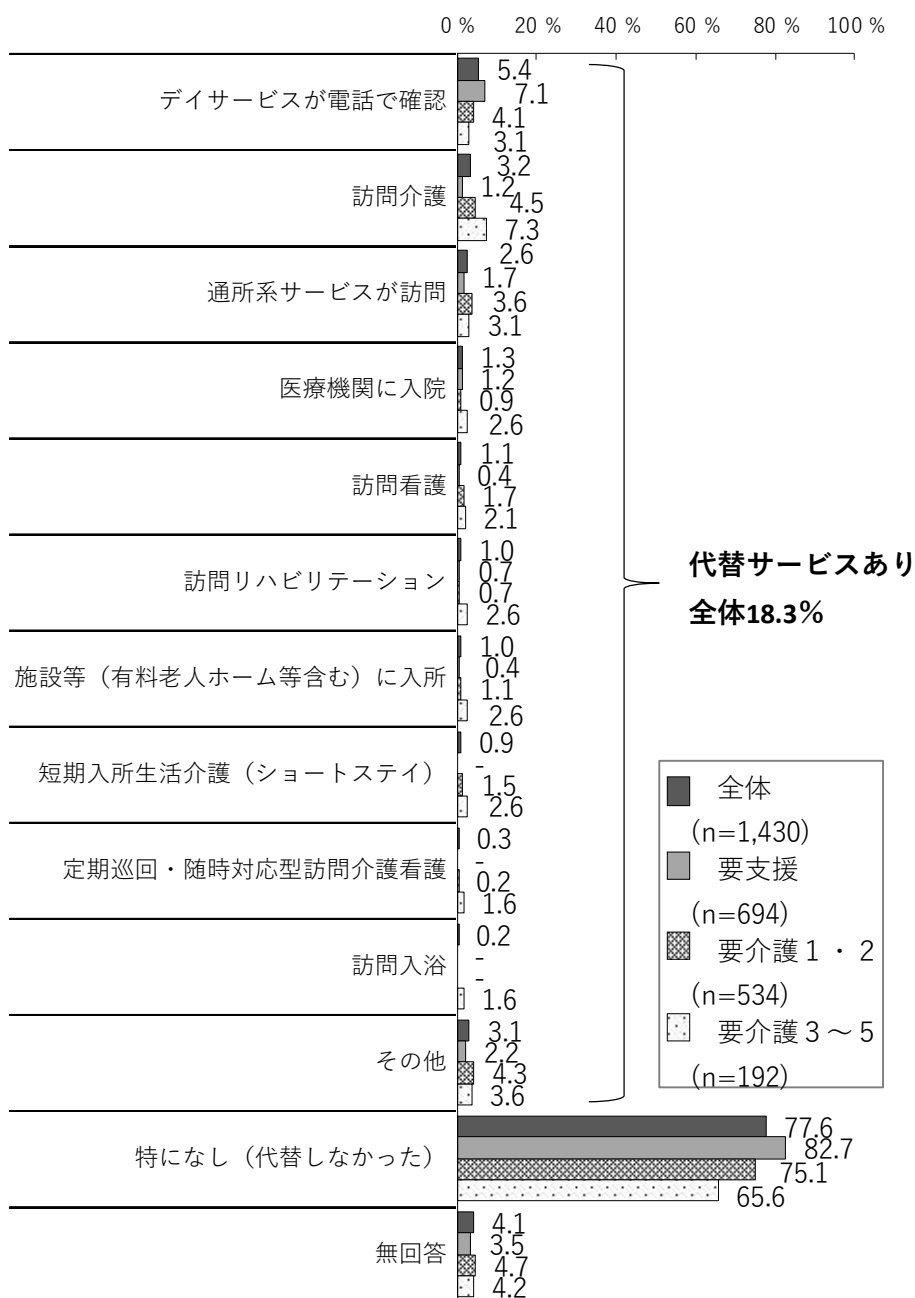
## (5) 代替サービス

### ① 代替サービス

- 利用回数の減った通所サービスについて、代替したサービスを聞いたところ、サービスを代替したのは全体の18.3%で、サービスの代替を特にしなかった利用者は77.6%であった。
- 代替サービスとしては、「デイサービスが電話で確認」が5.4%、「訪問介護」が3.2%、「通所系サービスが訪問」が2.6%であった。また、「施設等（有料老人ホーム等含む）に入所」は1.0%（14人）で、要介護度別の結果にも差はみられなかった。
- 要介護度別にみると、いずれも半数以上でサービスの代替が特になかった。

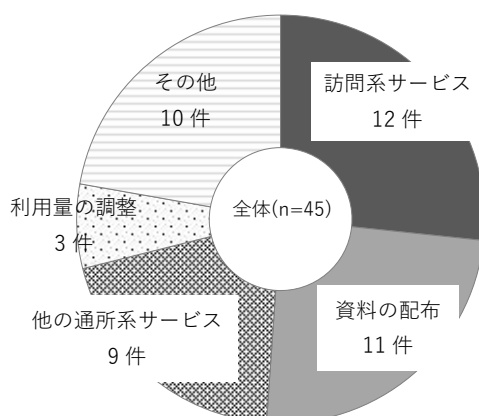
### ■代替サービス（複数選択）

問5 利用回数の減った通所サービスについて、代替したサービスをお答えください。



- その他を選んだ、利用者 45 名の回答があった。
- 「訪問系サービス」が 12 件、「資料の配布」が 11 件であった。

### ■その他（自由回答）



### ■その他の主な内容

<b>訪問系サービス【12件】</b>
訪問サービス、介護予防・日常生活支援総合事業
訪問マッサージ（医療）増回
医療保険の訪問看護
居宅療養管理指導（薬剤師）
往診
<b>資料の配布【11件】</b>
ケアマネジャーからの資料配布
自宅のできる体操パンフレットの配布
オンラインでの運動
リハビリメニュープリント・脳トレプリント配布し自主トレ、電話による指導
包括で訪問、予防の体操口腔ケアのパンフを配布
<b>他の通所系サービス【9件】</b>
他のデイサービス
他の通所介護へ変更
デイケア減った分デイサービスを増加
<b>利用量の調整【3件】</b>
通所リハビリを増回
通所介護を増回
<b>その他【10件】</b>
家族の訪問回数増
公園でのラジオ体操

※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。

## ② 施設等の種類

○①で「施設等に入所」した利用者（人）について、施設等の種類を聞いたところ、「有料老人ホーム」が5人、「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」がいずれも3人であった。

### ■施設等の種類＜要介護度別＞

問5-1 施設等の種類をお答えください。（単位：人）

	n	有料老人 ホーム	介護老人 福祉施設	介護老人 保健施設	介護療養 型医療施 設・介護 医療院	認知症高 齢者グ ループ ホーム	その他	無回答
全体	14	5	3	3	1	1	1	-
要支援	3	2	-	-	-	-	1	-
要介護1・2	6	2	1	2	1	-	-	-
要介護3～5	5	1	2	1	-	1	-	-

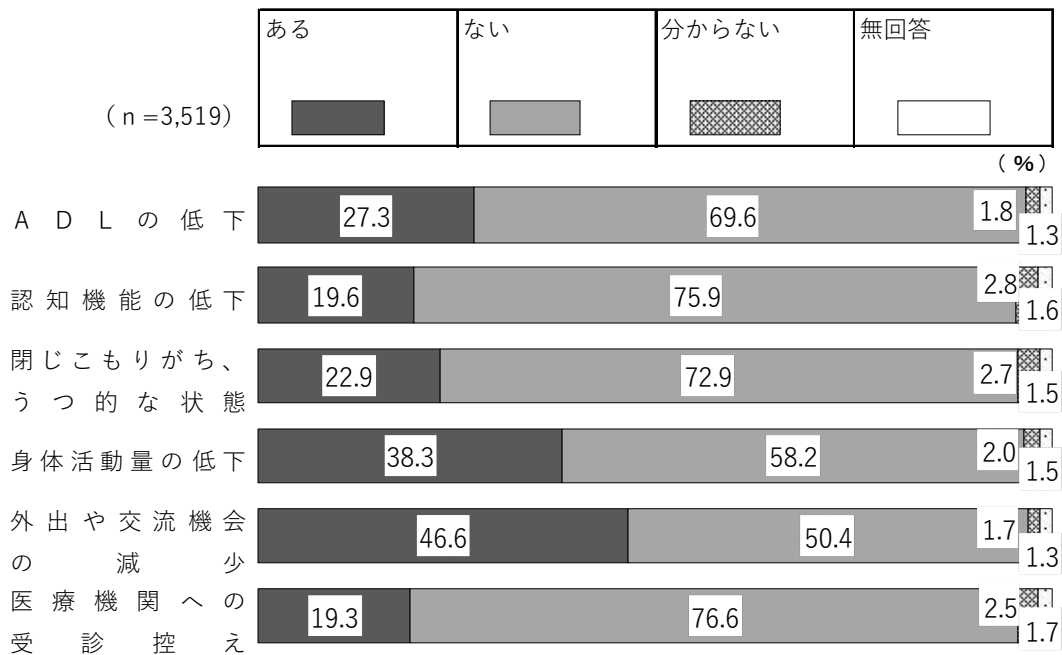
### 3 利用者の変化

#### (1) 令和2年2月からの身体状況等の変化

○令和2年2月と比べた利用者の現在（回答時点）の身体状況等の変化を聞いたところ、「外出や交流機会の減少」が46.6%、「身体活動量の低下」が38.3%、「ADLの低下」が27.3%、「閉じこもりがち、うつ的な状態」が22.9%、「認知機能の低下」が19.6%、「医療機関への受診控え」が19.3%であった。

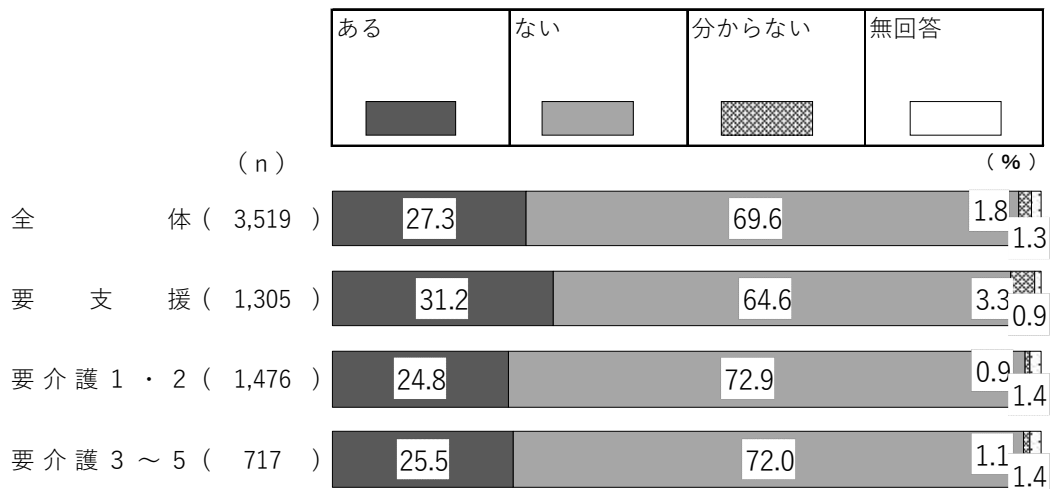
#### ■令和2年2月からの身体状況等の変化

問6 令和2年2月に比べて、利用者の現在（回答時点）の身体状況等についてお答えください。



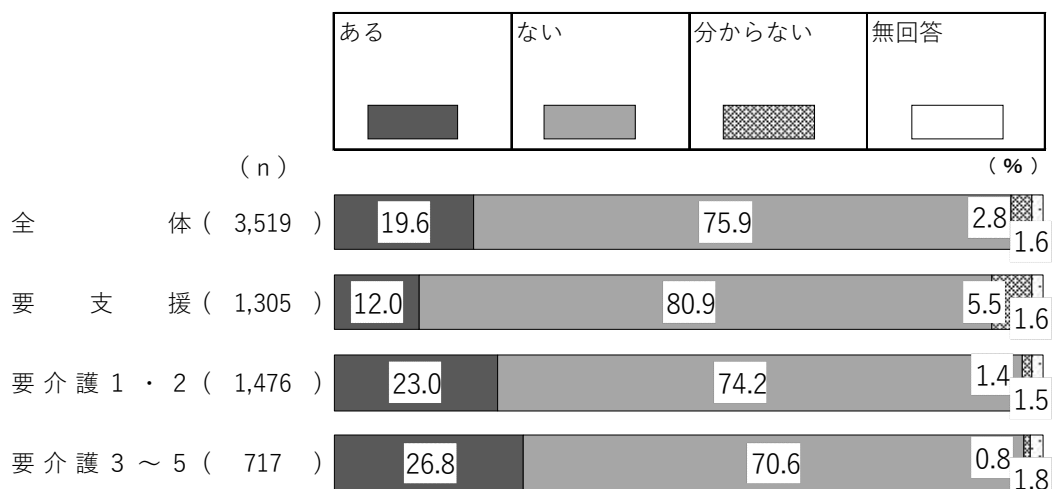
○ADLの低下について要介護度別にみると、『要支援』では「ある」が31.2%で、『要介護1・2』（24.8%）、『要介護3～5』（25.5%）と比べて高い傾向がみられる。

#### ■令和2年2月からの身体状況等の変化<要介護度別：ADLの低下>



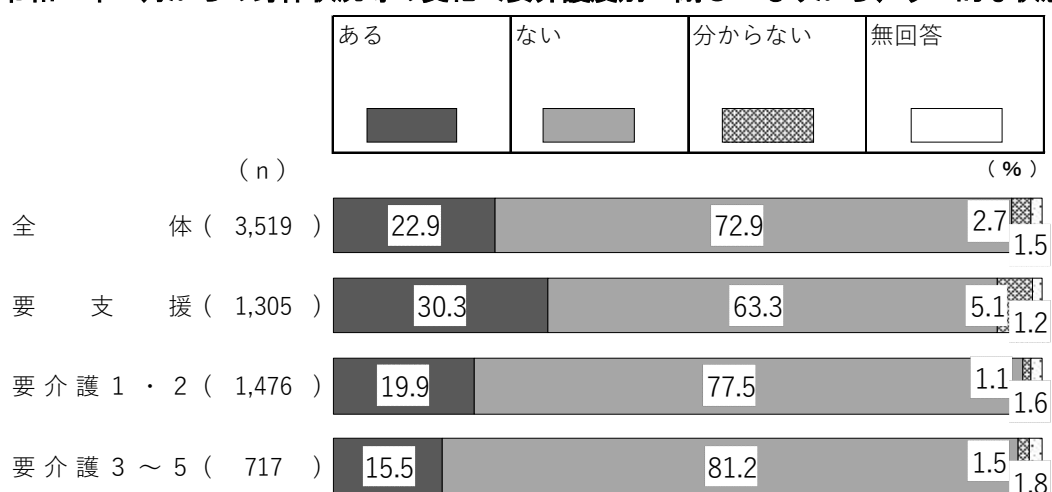
○認知機能の低下について要介護度別にみると、『要介護1・2』では「ある」が23.0%、『要介護3～5』では26.8%で、『要支援』（12.0%）と比べて高い傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<要介護度別：認知機能の低下>



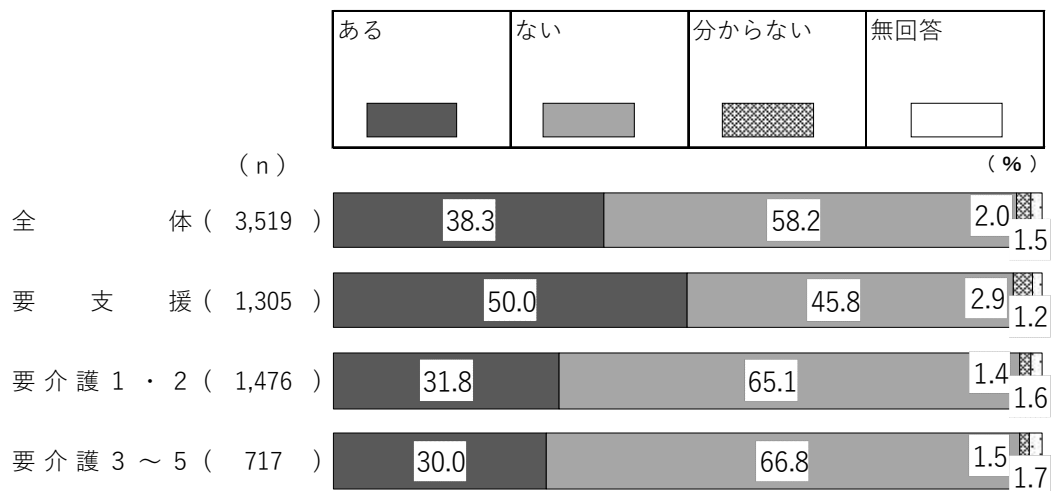
○閉じこもりがち、うつ的な状態について要介護度別にみると、『要支援』では「ある」が30.3%で、『要介護1・2』（19.9%）、『要介護3～5』（15.5%）と比べて高い傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<要介護度別：閉じこもりがち、うつ的な状態>



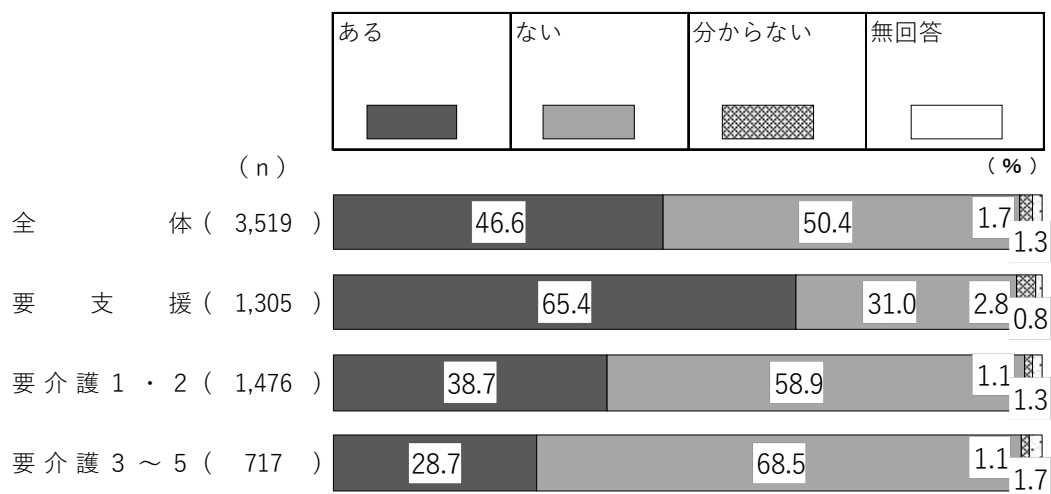
○身体活動量の低下について要介護度別にみると、『要支援』では「ある」が50.0%で、『要介護1・2』（31.8%）、『要介護3～5』（30.0%）と比べて高い傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<要介護度別：身体活動量の低下>



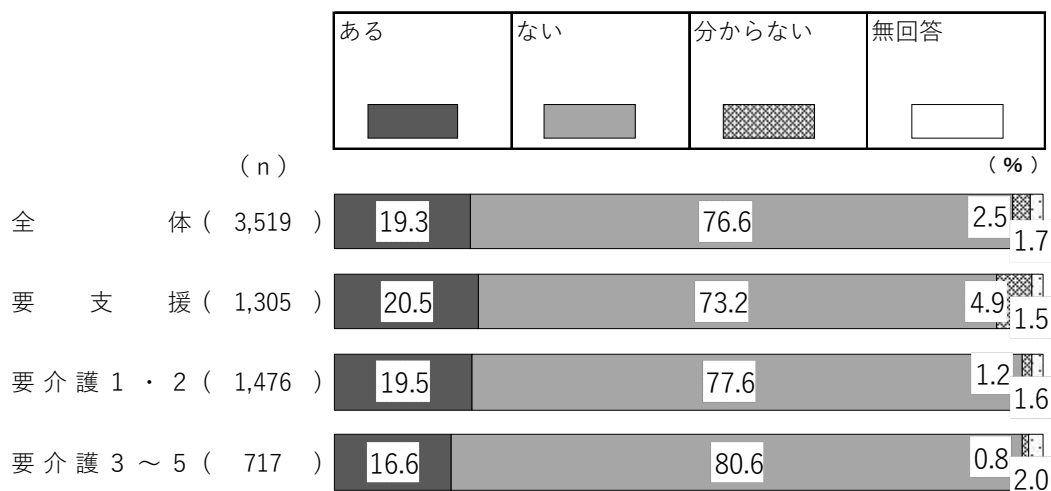
○外出や交流機会の減少について要介護度別にみると、外出や交流機会の減少が「ある」が『要支援』では65.4%、『要介護1・2』では38.7%、『要介護3～5』では28.7%で、要介護度が軽度になるにしたがって高くなる傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<要介護度別：外出や交流機会の減少>



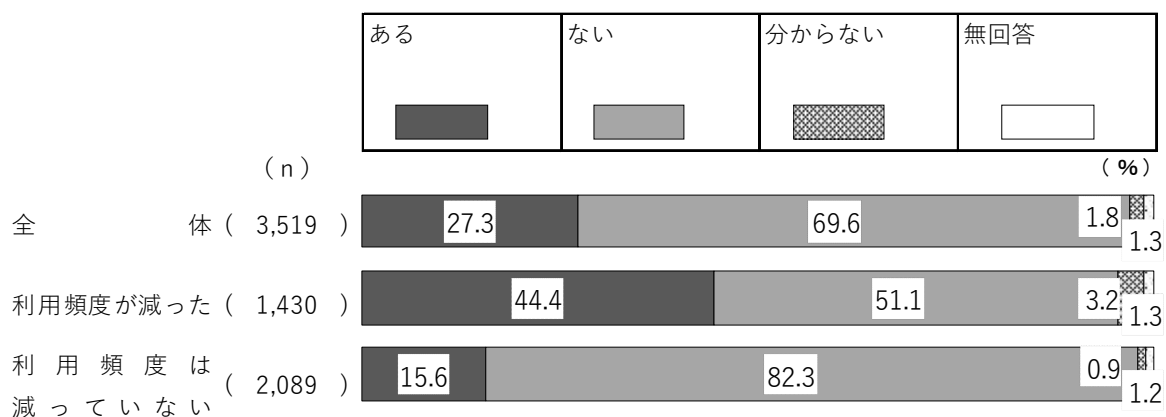
○医療機関への受診控えについて要介護度別にみると、大きな差はみられない。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<要介護度別：医療機関への受診控え>



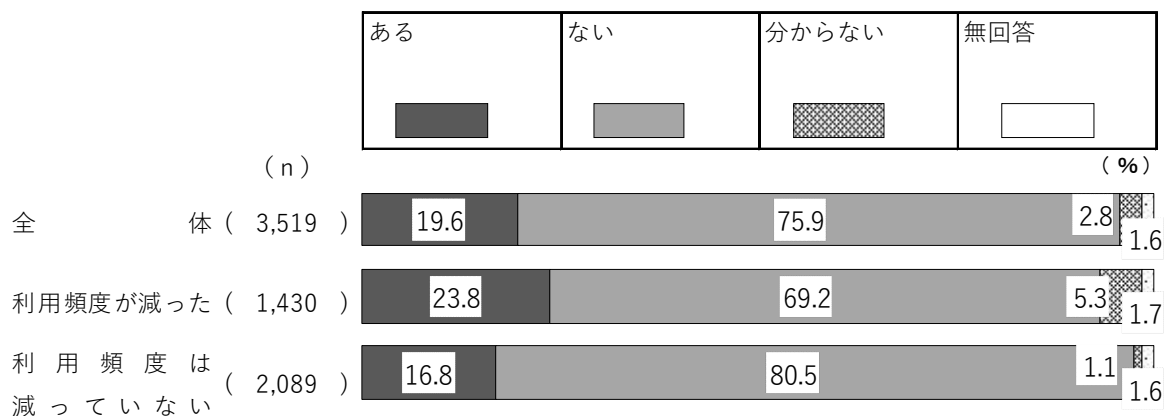
○令和2年2月から5月の通所サービスの利用頻度の変化有無別にみると、『利用頻度が減った』では、ADLの低下が「ある」が44.4%で、『利用頻度は減っていない』（15.6%）と比べて高い傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<サービス利用頻度の変化有無別：ADLの低下>



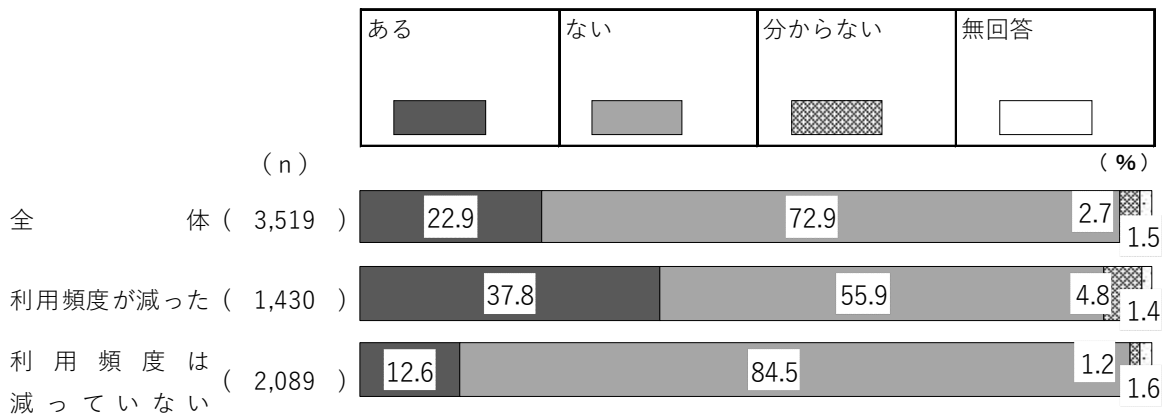
○『利用頻度が減った』では、認知機能の低下が「ある」が23.8%で、『利用頻度は減っていない』（16.8%）と比べて高い傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<サービス利用頻度の変化有無別：認知機能の低下>



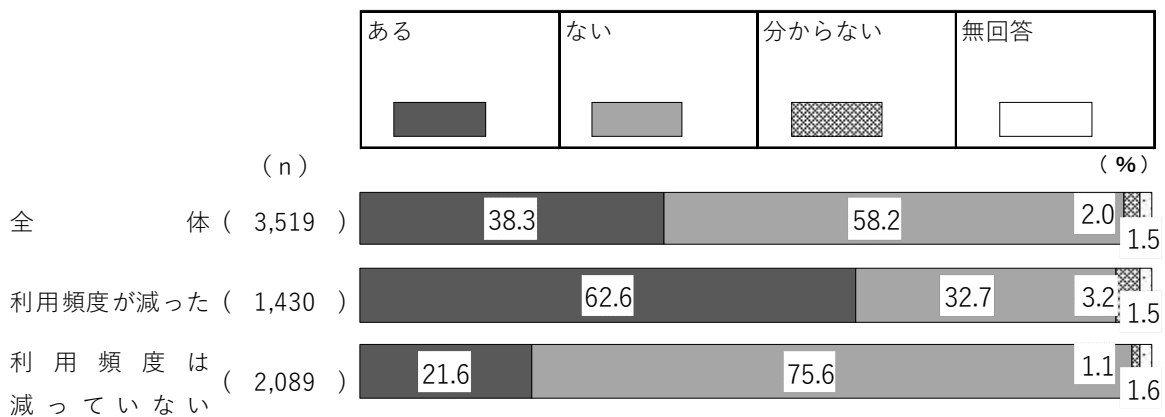
○『利用頻度が減った』では、閉じこもりがち、うつ的な状態が「ある」が37.8%で、『利用頻度は減っていない』（12.6）と比べて高い傾向がみられる。

**■令和2年2月からの身体状況等の変化**  
**<サービス利用頻度の変化有無別：閉じこもりがち、うつ的な状態>**



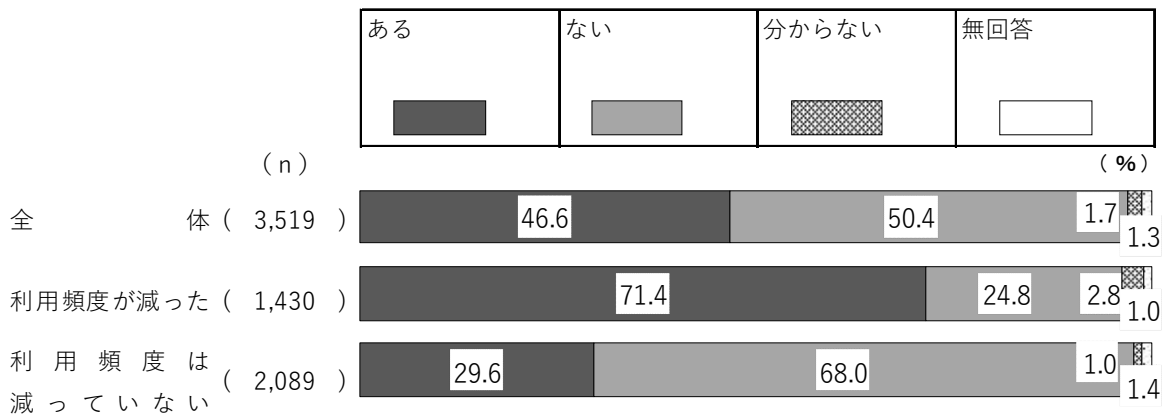
○『利用頻度が減った』では、身体活動量の低下が「ある」が62.6%で、『利用頻度は減っていない』（21.6%）と比べて高い傾向がみられる。

**■令和2年2月からの身体状況等の変化<サービス利用頻度の変化有無別：身体活動量の低下>**



○『利用頻度が減った』では、外出や交流機会の減少が「ある」が71.4%で、『利用頻度は減っていない』（29.6%）と比べて高い傾向がみられる。

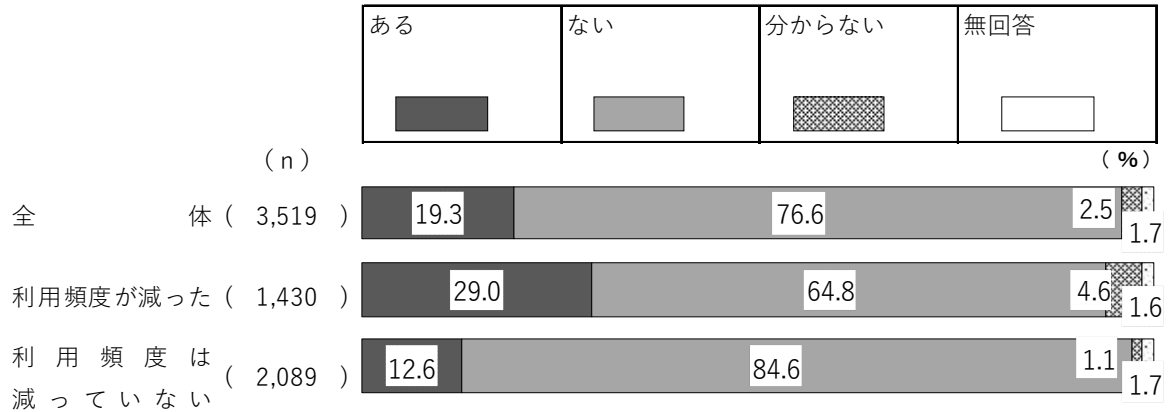
**■令和2年2月からの身体状況等の変化<サービス利用頻度の変化有無別：外出や交流機会の減少>**





○『利用頻度が減った』では、医療機関への受診控えが「ある」が29.0%で、『利用頻度は減っていない』（12.6%）と比べて高い傾向がみられる。

■令和2年2月からの身体状況等の変化<サービス利用頻度の変化有無別：医療機関への受診控え>

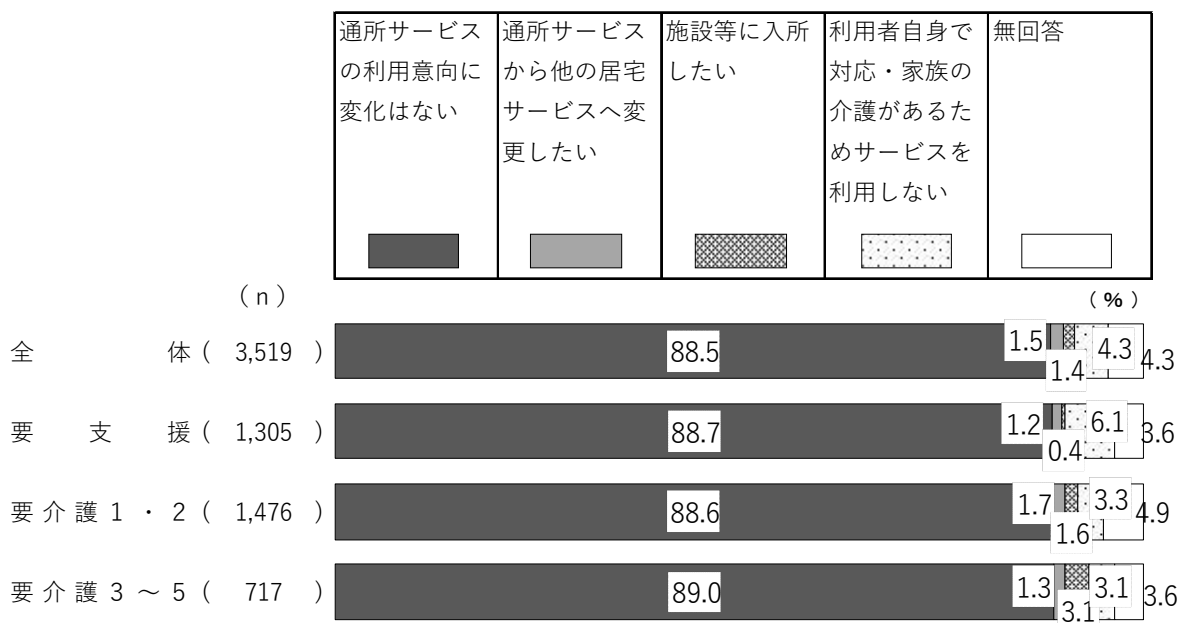


(2) 今後の利用意向の変化

- 新型コロナウイルス感染症の影響による利用意向の変化を聞いたところ、「通所サービスの利用意向に変化はない」が88.5%であった。
- 要介護度別にみると、大きな差はみられなかった。

■利用意向の変化<要介護度別>

問7 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、利用者やその家族等の今後の通所系サービスの利用意向に変化はありましたか。



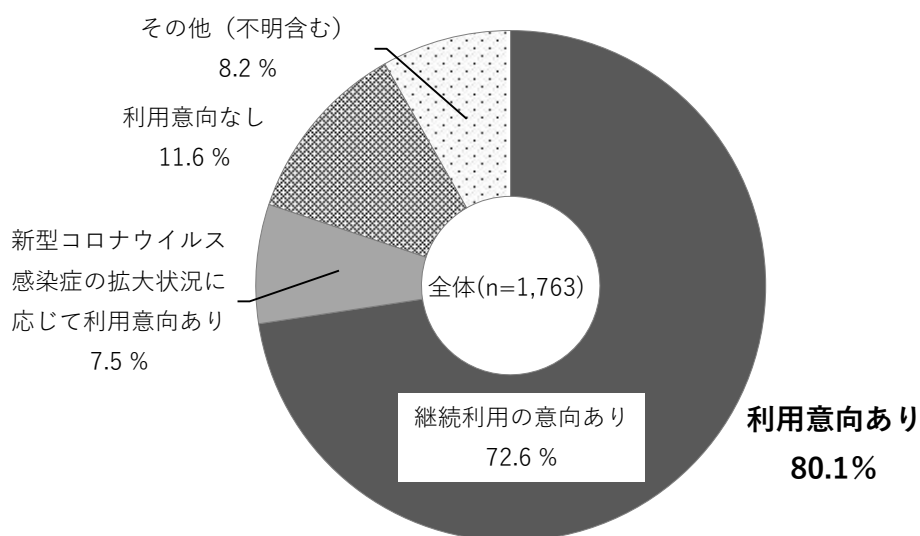
### (3) 具体的な利用意向

#### ① 全体

- 利用者 1,763 名から通所系サービスの具体的な利用意向について自由回答を得た。自由回答整理の結果、通所サービスについて「継続利用の意向あり」は 72.6% (1,280 人)、「新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて利用意向あり」は 7.5% (133 人) で、これら 2 つを合計した“利用意向あり”は 80.1% (1,413 人) だった。
- 「利用意向なし」は 11.6% (205 人)、「その他 (不明含む)」は 8.2% (145 人) だった。

#### ■通所サービスの利用意向 (自由回答整理)

問 7-1 利用者や家族から、具体的にどのような利用意向が寄せられていますか。



#### ② 利用意向あり

- 通所サービスの利用意向ありとした 1,413 名のうち、「これからも利用したい/休止後に再開」は 1,227 人、「増やしたい」は 53 人、「新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて利用意向あり」は 133 人だった。

#### ■通所サービスの利用意向あり (主な自由回答)

利用意向あり これからも利用したい 休止後に再開 【1,227 人】	コロナは心配だが、行かないとお風呂に入れない。
	デイサービスでリハビリがしたい。お風呂に入りたい。
	コロナは心配だが ADL の低下も心配なのでデイサービスには行かせたい。
	ADL が低下しないように定期的に外出して運動したい。
	コロナより、認知症が進まないように通所は続けてもらいたい。
	デイサービスでの役割があるので、仕事と思って生きがいとなっている。
	デイサービスに行ってお友達に会いたいのので利用を続けたい。
	デイサービスは適切に感染防止策を行ってくれていると思うので現状のまま継続利用させたい。
	本人・家族：検温、消毒、マスクなど色々に対応してくれているので心配していません。なるときはなるので、休まずデイを開いて下さり感謝しています。
	コロナの感染は気になるが、デイの対策もしっかりしているし、運動した方が良いと判断したので利用は継続している。
	本人：家にいると座っているだけ。コロナにはならなくても別の病気になってしまいそう。デイに通って免疫力アップしたい。
コロナは心配だが外出や交流の機会が無くなっているため、せめてデイサービスに行ってお楽しみが欲しい。	

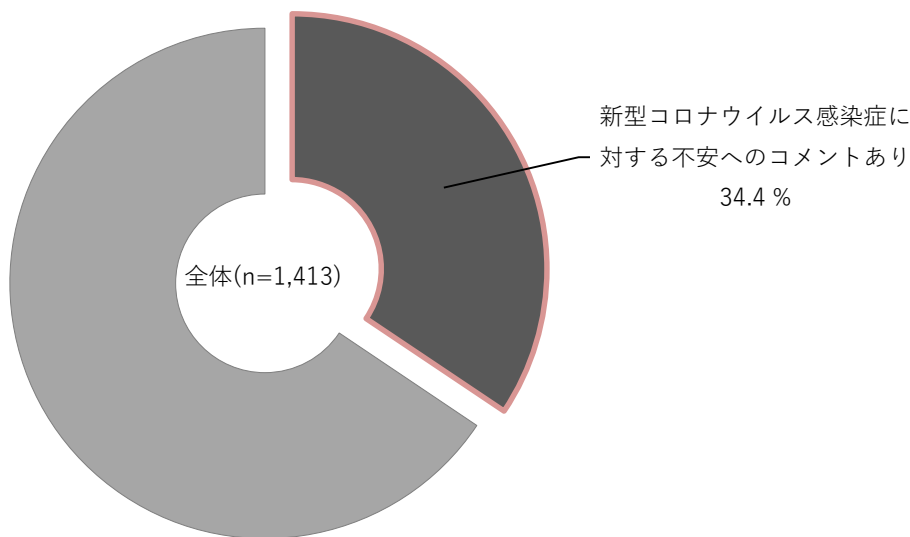
	<p>日中独居のためサービスの利用希望に変化なし。ただ、利用中のサービスの減少、ボランティアや訪問理美容についてメニューが少なくなっていると話されていた。</p> <p>独居の本人より、デイに通わないと、人との交流の場がないので、安否確認のためにも通所していると伺った。</p> <p>家族自身は電車利用や病院勤務のため、訪問を控えた。その分、デイサービスで本人の健康状態の把握をしてもらいたい。</p> <p>日中独居で本人がコロナを理解していないし勝手に出かけてしまうので通所の利用は続けたい。</p> <p>本人：家にいると寂しくて辛いが、デイに行くと思える。</p> <p>家族：独居なので週5回のデイがないと在宅生活が成り立たない。</p> <p>本人：デイが楽しみなので行きます。</p> <p>家族：私もずっと家に居られては介護疲れでストレスがたまるのでコロナのことがあっても行ってもらおうしかありません。</p> <p>コロナは心配ですが家族も仕事が再開したため、今までどおりデイサービスを利用していきたい。</p> <p>デイサービスが利用できないと家族の介護負担が多くなるので困る。</p> <p>コロナウイルスへの感染は怖い、他に外出の機会がないのでデイサービスに行かないと、家で寝たきりになってしまう。また家族の介護負担も大きいので、デイサービスは継続したい。</p> <p>地域密着型デイが休止となり家族が対応に追われてしまった。短時間デイでも続けて欲しかった。</p> <p>ADLが低下し、介護負担が増大した。入浴対応に困る。通りハは37.0°Cでも利用を控えるよう言われ、困った。</p> <p>本人は認知症で事態の理解はできず、家族のコロナ感染への心配、意識が少ない様子で、「感染への不安」は感じられない。特に通所利用の中止に迷う、などの様子もみられない。</p> <p>本人は通いたいと思っている。家族は、安全の判断材料が欲しいが、誰も責任をとれるものではない。行かせない悪影響と、行かせるリスクの狭間で揺れていた。</p> <p>地域密着型デイがお休みになり本人のADL低下と家族の負担増があった。コロナでも対応している通所に変更するが、再開するため戻ってほしいと言われたが、家族からまた休みなると困るので両方を使うことになった。再開時期も分からないため不安もあった。時期を決めても延びてしまうことへの不安が大きかった。</p> <p>施設だから仕方がないが、デイにも行けず、家族の面会も禁止になったため鬱状態になり、憤りを感じた。</p> <p>コロナウイルス感染への危惧から3月は減、4月は全く通所なしだったが、5月から復帰（認知症進行とADL低下のため）。復帰後、少し戻ったが完全には戻らず、コロナのことは心配だが、これ以上の悪化防止のため今後もデイに行かせるつもり。</p> <p>家族からの強い希望と持病があり、デイを休んだ。3月末から6月まで休んだが、その間に下肢筋力が落ち、今まで買物で歩いていた距離が歩けず、9月からは持病も安定しない。</p> <p>コロナ感染拡大（2月末）のころは家族の希望により、利用を控えていたが、認知機能の低下が目立ち、5月より少しずつ利用を再開した。6月に入ってから以前と同じ利用回数になった。家族は各事業所の衛生管理や感染の有無を確認し、利用に対して今は安心して様子である。</p> <p>家族の意向により自粛したが、ADLの著しい低下があったため、自粛を後悔している。</p> <p>5月の休んでいた頃は、事業所の予防対策に少し疑問を持っていたのと、家族に具合の悪い人がいたとの理由。その後はやはり運動は継続したいとのことで復帰される。</p> <p>4月の緊急事態宣言から、通所時にテーブルにつく人をへらすため、また、耳が遠いので、マスクをしていると他者の声が聞こえづらい。そのため1ヶ月ほど自主的に休んだが、その分、体力低下を感じ、利用を再開した。</p> <p>緊急事態宣言後は利用を休止した。いきがいデイサービスも一時閉鎖で友人と会うことも控えた。6月より様子を見ながら利用を再開した。</p> <p>8月末に利用しているデイの利用者から陽性者が出たため、利用者は自主的にそのデイを休み、他のデイサービスを2回利用した。</p> <p>コロナ感染拡大の4月に少しだけ親族宅に避難したが、デイに行かないと鬱傾向が酷くなるので、出来るかぎりデイや外出をして自宅に一人での時間を減らしたい。</p> <p>デイなしでは家族の生活が成り立たないため、リスクがあっても通所希望であったが、デイが1ヶ月休業してしまった。止むを得ず、他のデイサービスを臨時利用した。</p> <p>緊急事態宣言が出てからはしばらく自粛していた。デイの相談員からは時々電話があり、自宅での運動を勧められ、気にかけてくれたのは感謝している。家にいることが多かったため脚は弱くなったが、再開後は運動の必要性がよく分かり、今は休まないようにしている。</p> <p>老健施設職員1名の陽性者が出たことにより、「施設側からのサービス休止」の呼びかけに応</p>
--	---

	<p>じてサービスを休止した。施設職員・入所者の全員が検査で「陰性」となって業務が再開となり、この旨の施設側からの案内状に応じて、本人の意思でサービス利用の再開となった。「慣れていたもので、安心できるようになったのであれば利用再開したい」との意向だった。</p> <p>家族：本人もデイでマスクをしてもらえないので、行かせられません。落ち着いたら行かせたいです。（6月中旬より利用再開）</p> <p>本人・家族ともに、新型コロナ感染への心配は強く、自粛期間中は訪問介護も合わせて休まれていた。</p>
<p>利用意向あり 増やしたい 【53人】</p>	<p>ADLの低下があり、通所リハビリを増やしたい。外出減少し、閉じこもりから一人では歩行不安定になってしまった。</p> <p>デイサービス以外の外出の機会が減り、その後、転倒して骨折し、入院することがあった。ご家族からデイサービス増回の希望があった。</p> <p>家族：新型コロナウイルス感染拡大のため、老人会が休止になり外出の頻度が減った。本人も家でやることなく寝てばかりいるので、デイサービスの回数を増やしたいと思っている。</p> <p>今まで利用していた公共施設が休みになってしまい外出が減ったため、増回の希望があった。</p> <p>うつ的なので家族はどんどん通所させたいと言っている。</p> <p>感染拡大を意識され、体力向上の意識が強くなったと本人より伺った。デイの増回の希望あり。</p> <p>コロナが心配ではあるが、家族の負担軽減のために回数を増やしたい。</p> <p>家族も在宅ワークとなり、認知症のご本人が在宅していると、仕事ができない状況により、通所回数増となった。</p> <p>家族：体重が減ってきているのが心配だ。自分は海外にいて日本に帰れない。必要なサービスや支援を増やしてほしい。</p>
<p>新型コロナウイルス 感染症の拡大状況に 応じて利用意向あり 【133人】</p>	<p>コロナが終息したら再開したい。</p> <p>コロナが落ち着き、デイの対策を確認してから考えます。</p> <p>事業所のコロナ対応や社会状況を判断しながら。</p> <p>コロナ感染者の流行の度合いをみながら、休む時は休む。継続的に利用していきたい。利用者の中には、近くに寄られて話をされるなど、感染予防の意識の低い（理解できない）人もいて、困る時もある。</p> <p>コロナ感染が心配でお休みすると身体機能の維持ができないので、体調をみながらデイケアを利用したい。</p> <p>感染数が多い時だけは感染防止のため休止したが、その影響もあり認知症状が悪化したので、感染数を見ながら再開して通所を継続していきます。</p> <p>コロナ感染が心配なので今後も感染者拡大した場合はデイをお休みしたいとのこと。</p> <p>コロナ感染の人数をみながらデイサービスを利用したい。</p> <p>感染症が心配なので、いつから再開しようか判断に迷っている。</p> <p>高齢なので感染しては困る。家族も在宅になったので、散歩に付き添い、維持して感染者が減るまで待ちたい。</p> <p>利用者：「行きたいけど、まだ家族が家にいる。コロナを持ち込めない」 家族：「本人は多少外出しているが、まだ家族は在宅ワーク。もう少し見合わせ、落ち着いたらまた再開させてほしい」</p> <p>心臓や肺の疾患があるため、コロナが落ち着くまでは利用を控えたい。事業所で感染者がでたため、なお利用については慎重になっている。</p>

※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。

- 通所サービスの利用意向ありとした1,413名のうち、34.4%（486人）からは、新型コロナウイルス感染症に対する不安へのコメントがあった。
- ※「新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて利用意向あり」の133人を含む
- 利用意向があっても、事業所の感染症対策や他の利用者の感染対策等を心配している意見がみられる。
- 本人に利用意向がある場合でも、家族等から利用を控えるように求められて自粛しているような場合もみられる。

■通所サービスの利用意向（自由回答整理）



■通所サービスの利用意向あり：新型コロナウイルス感染症への不安（主な自由回答）

事業所の感染対策	きちんと消毒や換気をしてほしい。
	コロナの影響で4月は利用しなかった。5月から再開したが、室内の換気が非常に気になる。
	感染防止策が伝えられていないところもあり、不安な部分があった。利用を継続しないとならない状況下で不安があった。
	デイサービスに行かないと全く動かないので、安全ならデイサービスに行ってもらいたい。
	同居している利用者の娘の夫に持病があるため、デイサービスの職員全員にPCR検査を受けてほしいとデイサービスに連絡が入った。
利用者側の感染対策	本人より、感染拡大の初期時、同日利用されている利用者がマスク着用なしだったことで、一定期間休みたいとの意向があった。現在は周知され、心配なく通っている。
	デイサービスの利用者がマスクの着用をされていないことに不安を感じながらも、現在は休まずに利用を継続されている。
	事業者は感染防止対策を実施しているが、利用者の方がきちんとしていないのが気にかかる。利用者のモラルが上がるような対応をしてほしい。
その他	不安はあるが、本人の希望があり利用していきたい。
	コロナウイルス感染症は怖いですが、身体のためには運動したい。
	コロナは心配だが、外出や交流の機会がなくなったので、せめてデイサービスに行って楽しみたい。
	デイサービスが唯一の楽しみになっている。コロナは怖いですが、みんなも来ているから行きたい。
	外出自粛が解除になってから小規模のデイは再開・継続していきたいが、大規模(デイケア)は中止し、訪問介護に代替したい。
	家族：感染の不安はあるものの、家族は仕事もあり休めない。母もデイにお世話になるしかない。
	自粛期間中はデイを休みました。サークル活動等も休みになり、身体を動かす機会を求め、週2回の運動型デイを再開されています。
	入浴の機会の必要性があり、デイサービスを利用していたが、コロナが心配なので本当は外部の人との交流を控えさせたい。会う機会を減らしたいので、デイの利用回数を減らした。
	喘息など基礎疾患があり、咳も日ごろから出ていたため、周りへの配慮と自分が罹りやすいのではという不安があり自粛していた。

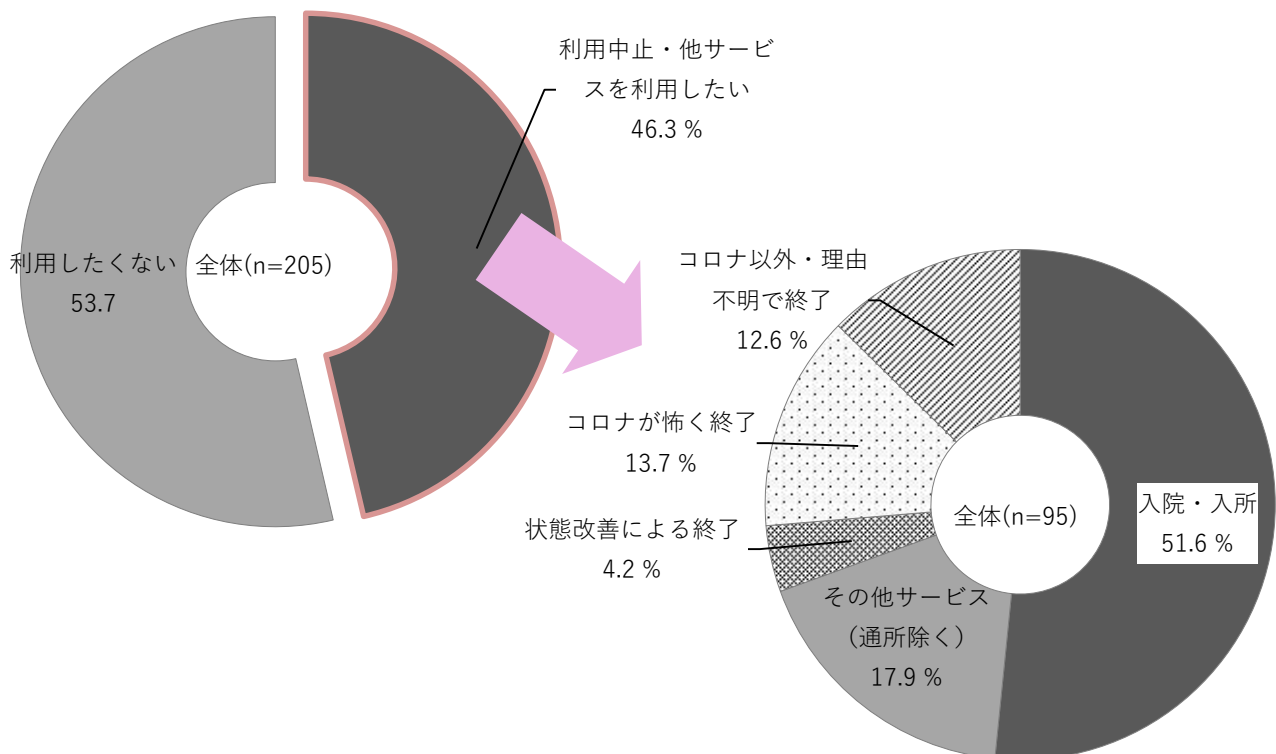
	家族間で通所利用に賛否あり、調整のためデイを休ませた。休ませたらADLの低下、認知症が進行し、利用再開を検討した。結果、2か所の通所を1か所に変更した。
	本人：家族から休むように言われた。自分では行きたいので、早く利用再開したいです。
	本人：通所そのものはしたい。しかし不特定多数の人が集まる場所に行くのは不安もあるし、家族も反対している。
	本人は、身体機能の維持のため、変わらず、現行のサービスを希望。妻は、コロナ感染に不安を感じていて、夫が通所することに呆れている。
	5月は自分の持病を心配し控えていたが、今は再開している。休んでいるうちに仲の良かった友達がやめていたとのこと。
	現病歴の多い夫への感染が心配で、デイサービスのお休みを希望されたが、デイからの提案でスマートフォンを利用して自宅にて、リモート参加をされている。今でもリモート参加が続いており、通所されないままになっている。

※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。

### ③ 利用意向なし

- 通所サービスの利用意向なしとした205名のうち、「利用中止・他サービスを利用したい」は46.3% (95人)、「利用したくない」は53.7% (110人) だった。
- 「利用中止・他サービスを利用したい」と答えた人(95人)のうち、「入院・入所」が51.6% (49人)、「その他サービス(通所除く)」が17.9% (17人)、「状態改善による終了」が4.2% (4人)、「コロナが怖く終了」が13.7% (13人)、「コロナ以外・理由不明で終了」が12.6% (12人) だった。

#### ■通所サービスの利用意向なし(自由回答整理)



#### ■通所サービスの利用意向なし(主な自由回答)

利用中止・他サービスを利用したい	コロナ感染が心配なので家で過ごすデイサービスは利用しない。
【95人】	本人はコロナの影響でデイを休み、そのまま再開が億劫になったとのこと。別居の家族の意向で訪問看護を利用することになった。
	通所は再開せず、訪問看護ステーションからのリハビリのみ希望。
	デイサービス欠席中の電話や訪問がしつこかったり、朝早くかかってきて迷惑だったのでデイ

	サービスを止めることとなった。
	介護者に肺疾患があるため、消毒についてはかなり神経質になっている。夫は要支援で、妻と一緒に、ショートステイを利用していたが、感染リスク軽減のため、サービスはしばらく中止にすると話があった。
	ケアマネジャー：数ヶ月、デイサービスを休んだら外出する習慣が途絶えて、億劫になり、デイサービスに復帰することが負担となり、止めることとなった。結局、閉じこもりになり、居宅サービスの希望もないため（拒否）、見守り訪問を利用している。
	コロナに感染した利用者が出たらしく、何曜日に出たかを施設に聞いたら個人情報ということで答えてくれず、不信と不安を感じてしまい通所しなくなった。
	できていたことができなくなり、在宅ケアが困難になってきた。施設入所を準備しながら、それまでの間をショートステイの利用で対応したい。
	施設の方が安全なので、入所させようと思います。
	コロナで在宅にいることが増え、認知症も進行した。介護者は仕事もあり、在宅介護が困難で施設入所が早まった。
	認知症の進行、頻回な転倒により、一人暮らしが困難となってきたので、早期に施設に入所させたい。
	家族の今後の方向性は、施設サービスを希望している。今は、デイサービスとショートステイを利用しながら在宅サービスを継続希望されている。
	本人：コロナのことが気になるので、本当はデイに行きたくない。 家族：心配しながら毎回送り出すより、認知症状も進んだので施設入所を考えることにします。 脳梗塞にて入院中。
	5月はコロナ感染症でデイをお休みし、自主的に散歩や自宅のできる体操を毎日していた。効果があり、杖をつけて外出ができるようになり、6月からはデイの利用なしとなりました。
利用したくない 【110人】	家族の話では、本人が過度に感染症を気にかけているので、ステイホームの意向が強い。また、訪問されることにも感染症を気かけ消極的である。
	ケアマネジャーの訪問も控えてほしいと希望があった。
	本人：コロナが早くおさまるか様子をみているうちに月日が経過し、怖くなり再開するタイミングを逃してしまった。
	家族：透析を週3回受けており、病院での感染も心配だが、止めるわけにもいかず、感染者が増えて今もお休みしている。感染した時の重篤化のリスクが高いので様子を見たい。
	本人：マスクをし続けると呼吸が苦しくなるので行きたくない。 家族：週に1回位はデイに行ってほしいと思っている。
	コロナウイルスの影響で密になるのは嫌で、通所系は利用したくない。
	デイサービスは楽しいから続けたいが、コロナ感染が怖い。家族に迷惑かけたくないで自粛したい。
	デイへは利用者やスタッフの家族等、コロナ感染経路は多岐に渡っているため不安がある。
	主治医の判断により、休止と再開を決めている。自宅にいる間はデイで実施していた運動やストレッチなどを自主的に取り組んでいたが外出はほとんどしていなかった。
	本人も高齢だが、妻も肺疾患があり、配慮してデイの利用を休止した。いつも行く体育館も使えず、毎日歩くようにしていたが、筋力は落ちていくと思う。
	落ちつくまでデイで教えてもらった体操を取り組みたい。デイは利用せずヘルパーに手伝ってもらいながら最小限の他者との関わりをしたい。
	もう歳だし、わざわざリスクを冒してまでデイには行かない。専業主婦がいるので、家で対応する。 コロナが心配で、利用希望はない。入浴が少し困っている様子がある。

※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。

#### ④ その他

○その他の主な自由回答は以下のとおりだった。

##### ■その他（主な自由回答）

コロナ感染症への不安。

どこで感染するか分からないという不安が大きい。

持病があり、感染すると命にかかわる。高齢者2人暮らしのため感染すると対応できない。
癌で治療しているのにコロナで死にたくない。
御家族に持病があるため、新型コロナの感染が怖いとのこと。
3世代同居家族のため、小さい孫への感染をとっても心配されていた。外出するにも感染を心配してほとんど自宅で過ごされていた。
コロナウイルス感染症の影響で、サークル活動も休止し、他者との交流が減った。安心して外出できる様になってほしい。
コロナウイルス感染症にかかることを心配して外出しない。
閉じこもりを避ける、自宅の生活の中で適度な外出して楽しむようにしたい。
やる気がおこらず、億劫になってしまった。
楽しみが減り、生活に張り合いがない。
連日のコロナニュースの影響で抑うつ状態との診断を受ける。人との接触を恐れるようになり、通院以外で一切外出しなくなってしまった。認知機能低下しドアが開けられないなどが現出している。
病院の受診でコロナ感染が怖い。訪問診療に切替えたい。
通所系サービスの訪問代替にて対応して下さるので助かる。
入浴ができず困り、ヘルパーに介助してもらい、自宅で入浴した。
感染予防対策に不安を感じるので、受診は控えている。密になるサービス担当者会議は控えてほしい。
コロナ感染予防対策は、どのようにしているか。
夫と同じ通所へ参加していたが、本人のみデイサービスの訪問サービスに切り替えようかと話が出ていた。家で一人での留守番がつまらなくて困るかもしれないと、かなり悩まされていた。
入院後、看取り体制となり自宅に退院してきた。退院後、サービスの利用は福祉用具だけになった。自宅で看取ることになった時、ホスピスの空きがなく困った。
障害支援におけるスポーツなどの参加ができなくなった。運動する機会を増やし、能力低下を予防したい。
もともとデイサービスの利用頻度は少ない方であった。新型コロナウイルス感染症の流行により、より外出・交流頻度が減少し、身体機能の低下がみられている。居宅系サービスの導入により、身体機能が維持できるようにしたい。
毎年、春は他県在住の妹家族との交流があった。本人が電車、バスなど交通機関を利用して外出することができていたのに、今年に行くことができないし、家族が自宅に来ることもなくなっている。
デイでマスクをつけていない方に対しての厳しい態度をとり、本人がデイを休もうとすることもあった。毎日、自転車知人宅へ夕食をとりに行っていたが、今は行けなくなり、自宅でひとりの時間が増えている。
コロナで外出の機会が減った。夫婦で散歩をしなくなったので、デイ以外は自宅に閉じこもり状態。うつ症状もみられるようになった。
一緒にいる時間が増え、家族がストレスを抱えている。本人が家で何もしなくなり在宅勤務の家族に頼りきりになる。
コロナの影響でテレワーク等になり、家族の会社の仕事が増大。介護ができなくなった。
コロナで家族の仕事が減り、収入が減ったことで、サービス費の支払いが難しい。家族が家にいる時間が増え、介護疲れでストレスが増えた。
新型コロナウイルスの影響で家族の収入が減っている。介護負担は増えているので辛いですが、支払いが厳しいのでサービスを増やすことができない。
新型コロナに関係なく、家族は施設入所を希望しているが、利用者は拒否が強い。
デイの体温測定で37度と言われとても心配だった。普段から体温が高いので、体温測定数値を上げてほしい。
身体機能低下を心配され、学校が休みの孫と一緒に歩行訓練をしてくれたりして、孫との交流ができて良かった面もあった。

※自由回答は、誤字脱字や、てにをは等の修正以外は、原文のまま掲載しています。

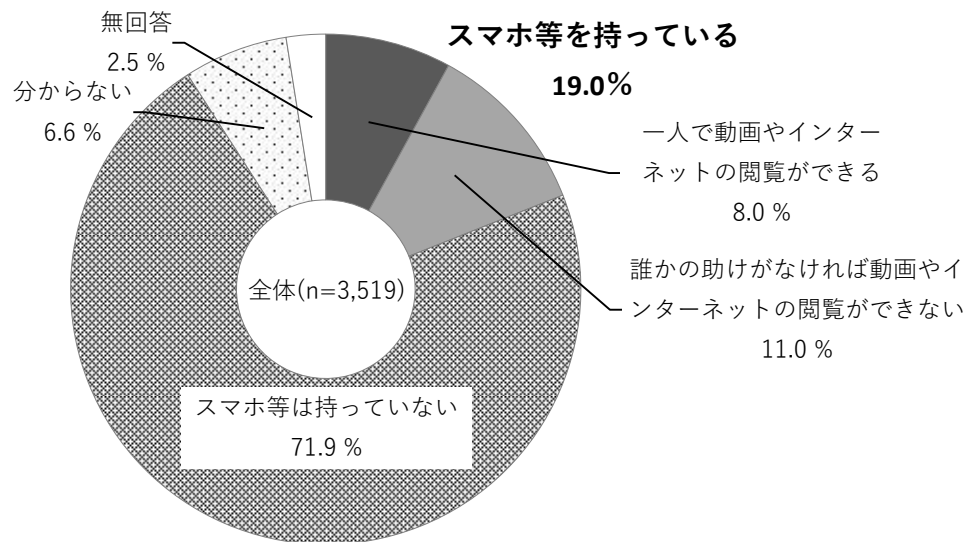


## 4 スマートホン等の利用状況

- スマートホンやタブレット端末の利用状況を聞いたところ、「スマホ等は持っていない」が71.9%であった。
- スマートホンを持っていて、「一人で動画やインターネットの閲覧ができる」は8.0%、「誰かの助けがなければ動画やインターネットの閲覧ができない」は11.0%であった。

### ■利用状況

問8 利用者のスマートホンやタブレット端末（以下「スマホ等」とする）の利用状況をお伺いします。



# 練馬区通所サービス調査

## ◆ 調査へのご協力のお願い ◆

日頃から、練馬区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。  
区では、通所サービスの利用に新型コロナウイルス感染症が与えた影響を把握するために、「練馬区通所サービス調査」を実施します。

本調査で得られた情報につきましては、区で適切に管理し、事業所・回答者及び利用者個人が特定される形での公表や、他の目的での使用はいたしません。ご協力いただきますようお願いいたします。

令和2年9月 練馬区

## ◆ 調査票のご記入にあたって ◆

●回答は、あてはまる番号に○をつけてください。質問文にある「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」などの指示にしたがってご回答ください。また、ご意見や数字などを直接ご記入いただく質問もあります。

●質問の回答が、「その他」にあてはまる場合は、( ) 内になるべく具体的にその内容をご記入ください。

●ご記入いただいた調査票は、9月24日(木) 17時までに、練馬区介護保険課にご提出ください。

●Webからもご回答いただけますので、ぜひご活用ください。

回答ページ <https://rsch.jp/ea34e86628331f36/login.php>



**【調査主体・お問い合わせ先】練馬区 高齢施策担当部 介護保険課**

**電話：03-5984-2863 メール KAIGO@city.nerima.tokyo.jp**

**受付時間：月曜日～金曜日（平日）8：30～17：00**

※ お使いのQRコード読み取りアプリによっては、広告が表示される設定になっている場合があります。広告は本区とは関係ございませんので、アクセスされる際は、ご注意ください。

事業所番号をお答えください。(10桁)

事業所番号										
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

令和2年2月から令和2年7月に継続してケアマネジメントをしていて、通所サービスを利用している方で、あなたが担当している人数をお答えください。

人
---

※ 次ページからは、上記に該当する利用者に関する設問です。利用者一人につき、1枚（問1～問8）をお答えください。

例：上記の回答人数が5人の場合、5枚の回答結果をご提出ください

問1 利用者の令和2年2月の要介護度を入力してください。(○は1つ)

1 要介護1	2 要介護2	3 要介護3	4 要介護4
5 要介護5	6 要支援1	7 要支援2	8 総合事業対象

問2 令和2年2月に利用していた通所サービスをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 通所介護 (一般デイ)	2 地域密着型通所介護 (密着デイ)
3 認知症対応型通所介護 (認知デイ)	4 通所リハビリテーション (デイケア)
5 通所サービス (介護予防・日常生活支援総合事業)	

問2で選んだサービスについてお伺いします。

問3 令和2年2月と令和2年5月を比べて、サービスの利用状況に変化はありましたか。(問2で選択したサービスそれぞれに○は1つ)

選択肢(いずれか1つに○)	1 5月の利用頻度が増えた	2 5月の利用頻度は変わらない	3 5月の利用頻度が減った	4 サービス利用がなかった
① 通所介護	1	2	3	4
② 地域密着型通所介護	1	2	3	4
③ 認知症対応型通所介護	1	2	3	4
④ 通所リハビリテーション	1	2	3	4
⑤ 通所サービス (介護予防・日常生活支援総合事業)	1	2	3	4

⇒選択肢1・2のみの場合は  
問6へお進みください

問4以降に  
ご回答ください

問3で、1つでも「減った」「利用がなかった」と回答した方にお伺いします。

問4 通所サービスの利用が減った理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 新型コロナウイルス感染症による影響があった	2 入院 ⇒問5へ進む
3 その他 ( )	) ⇒問5へ進む

問4で「1.新型コロナウイルス感染症による影響があった」と回答した方にお伺いします。

問4-1 新型コロナウイルス感染症が、この利用者の通所サービス利用の減少に与えた影響について、具体的にお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 利用者本人による感染予防のための自粛があった
2 利用者家族による感染予防のための自粛があった
3 本人または家族の収入減による利用の手控えがあった
4 家族等が在宅勤務等で日中の介護を担ったことによる、ニーズの減少があった
5 事業所による利用者数の制限等のサービス縮小があった
6 事業所による一時的な休業があった
7 事業所が閉鎖した
8 その他 ( )

**問5 利用回数の減った通所サービスについて、代替したサービスをお答えください。(あてはまるものすべてに○)**

1 訪問介護	2 訪問入浴
3 訪問看護	4 訪問リハビリテーション
5 短期入所生活介護 (ショートステイ)	6 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
7 小規模多機能型居宅介護	8 看護小規模多機能型居宅介護
9 施設等(有料老人ホーム等含む)に入所	10 医療機関に入院
11 通所系サービスが訪問	12 デイサービスが電話で確認
13 その他 ( )	14 特になし (代替しなかった)

**問5で「9. 施設等に入所」と回答した方にお伺いします。**

**問5-1 施設等の種類をお答えください。(あてはまるものすべてに○)**

1 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	2 介護老人保健施設 (老健)
3 介護療養型医療施設・介護医療院	4 認知症高齢者グループホーム
5 有料老人ホーム	6 その他 ( )

**問6 令和2年2月に比べて、利用者の現在(回答時点)の身体状況等についてお答えください。**

選択肢(いずれか1つに○)	1 ある	2 ない	3 分からない
① ADLの低下	1	2	3
② 認知機能の低下	1	2	3
③ 閉じこもりがち、うつ的な状態	1	2	3
④ 身体活動量の低下	1	2	3
⑤ 外出や交流機会の減少	1	2	3
⑥ 医療機関への受診控え	1	2	3

**問7 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、利用者やその家族等の今後の通所系サービスの利用意向に変化はありましたか。(○は1つ)**

1 通所サービスの利用意向に変化はない
2 通所サービスから他の居宅サービスへ変更したい
3 施設等に入所したい
4 利用者自身で対応・家族の介護があるためサービスを利用しない

**問7-1 利用者や家族から、具体的にどのような利用意向が寄せられていますか。**

--

**問8 利用者のスマートフォンやタブレット端末(以下「スマホ等」とする)の利用状況をお伺いします。(○は1つ)**

1 スマホ等を持っていて、一人で動画やインターネットの閲覧ができる
2 スマホ等を持っているが、誰かの助けがなければ動画やインターネットの閲覧ができない
3 スマホ等は持っていない
4 分からない

練馬区通所サービス調査報告書  
(新型コロナウイルス感染症拡大による影響調査)

令和3年(2021)3月発行

編集・発行

練馬区 高齢施策担当部 介護保険課  
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1  
電話 03-5984-2863